二　元禄八年二月 ～ 六月

「（表紙）　元禄八年乙亥年
　　万覚帳
　　二月廿六日ゟ同六月七日迄　　土屋次郎左衛門　」

元禄八乙亥年二月廿六日ゟ

一自分蔵之義并玄秀高之義ニ付笹岡へ参候、金津平野屋忠右衛門方ゟ東善寺村ニ而古町喜右衛門持高忠右衛門買取申候為断と使参候

一北金津大文字屋源介方ゟ用事被申越ニ付、金津参候而久左衛門方ニ泊り罷有候

同廿七日

一金津ゟ罷帰候ニ付菅野村へ寄、半右衛門与長百生罷帰候ハ、早々参候ニと申付罷帰候

一菅野村山出入源介物語之儀ニ付後山へ相談ニ参候

同廿八日

一生類之御法度証文取可申と存候ニ付はいふ村々へ遣し申候、并御廻米御改ニ一両日之内藤太夫様御出之由、拾五匁銀・三匁銀之事申遣候

一菅野村久左衛門・三郎左衛門・八郎兵衛・清左衛門・甚左衛門・理兵衛、此六人ニ被仰渡御用有之ニ付参候様ニと廿三日ゟ今日迄五ケ度配符又ハ并ニ（マヽ）庄屋半右衛門ニ申付候処、終ニ不参候ニ付吟味之上庄屋半右衛門ニ口書為致、十楽又右衛門・同五十郎・清王村権兵衛・宮谷義太夫、此四人其座ニ有合候ニ付証拠判為致候

同廿九日

一舟寄へ参頃日源介と相談いたし義共段々申上、其上右之菅野半右衛門口書を御目ニ懸候へハ、此出入落着之後御せんき可被遊由、然ハ口書ハ御返し被下候様ニと達而申上候へ共、御預り可有由ニ而御留置候

一舟寄ゟ罷帰金津大文字やへ参、右出入之山重而売渡し可申との源介証文、被相渡候ハ、此出入済可申と申候得共、証文之義思案之上返事可申と被申候ニ付、金津久左衛門方ニ泊り罷有候

三月一日

□（ヽ）源介此方望之証文仕事成間［　　］申ニ付罷帰［　　］

三月二日

一大文字や源介ゟ少申度事有之候間、今日金津へ罷出候様ニと使札参候ニ付、指而替事も無之候へ者参申ニも不及事ニ候へ者、後刻可参由返事遣し候、□書状返事之留有

一権右衛門節句之御礼ニ遣し候ニ付、此中源介申談候段々菅野村返

答仕候事ハ、金津之目安江戸へ上り八判調候而返答被仰付可被下候、其外出入之様子共書状舟寄へ指上候

一金津参候へハ源介被申候ハ、三田村六右衛門殿ゟ為御使と被仰聞候段々ハ、山重而代金ヲ取相渡し可申との源介判形為相渡候事不成子細有之候間、六右衛門慥ニ請合候故ハ無気遣、此出入相済申ニをゐてハ弥介たすかり申事ニ候間、其通ニ而相済可被申ニ、此義相違候ハ、六右衛門身代を懸可申との口上ニ候、我等返事ニハ委細承届候、然共急ニ御返事ハ不被申上候、能思案いたし明日御返事可申上と申罷帰り候

一右之様子相談可仕ため明日菅野村迄御出被下候様ニと申、布目・後山へ書状遣し候

一右之通曖ニ仕、山取候ハ、為路銀と金子出し候様ニと菅野へ申渡候

同三日

一菅野村ゟ返答御内見ニ入申度候間取次くれ候様ニと申ニ付而、権右衛門同道いたさせ舟寄へ遣シ候

一茂右衛門殿と同道いたし菅野へ罷出候へ共、布め彦兵衛方ゟ昨日之返事参候而、彦兵衛不被参候ニ付又彦兵衛方へ書状遣し候得共、彦兵衛不被参候ニ付菅野ゟ罷帰候

一菅野村返答御内見を願候へ共、御内見不被成候付権右衛門罷帰り候

一生類御法度証文舟寄へ指上候

一御廻米御改ニ河和田・川原井手・伊井村・清間・御簾尾・北野・北村ゟ、明日四日ニ御廻り被成候由青山藤太夫様御状参候

同四日

一大文字や源介方へ六右衛門殿ゟ御使返事昨日可申上候処、御廻米御改ニ今日御役人様方村々へ御出被成候ニ付、昨日ゟ下改ニ懸り罷有候ニ付御返事遅成申ニ付、為御断書状を以申入候と申遣候、其返事参候

一青山藤太夫様御廻米御改ニ御出被遊候而泊り被成候、前谷村

一御廻米御改ニ御用候間、明五日ニ村々庄や長百生参候様ニとはいふ遣し候

同五日

一村々御廻米日切請合判形御取被成候

一藤太夫様後山へ御越被成候

一御同人様へ菅野村之儀、六右衛門殿ゟ源介を以被仰付候事御相談申上候

一山田勘介様布目へ御越被成候ニ付、菅野出入之儀三田村六右衛門殿ゟ源介を以被仰越候義、為御相談之布目へ参三国ニ泊り申候

一東善寺村御詫言申上候、久兵衛籠入之事

同六日

一三国ゟ布目迄罷帰泊り罷有候

一菅野半右衛門返答持参仕候由、宿ニ不罷有候付返答請取不申候由

同七日

一布目村逗留いたし候

同八日

一布目ゟ罷帰候節大文字や源介参、当二日ニ三田村六右衛門殿ゟ被仰越候義共、金津方ゟ証文取不申相済申事成申間敷由御返事申上宿へ罷帰り候

同九日

一米四石九升、是ハ組中御廻米惣半米(飯)共出村甚左衛門ニあつらへ申、但拾表九升也

［　　］彦四郎御廻米甚左衛門ニ誂申候、内三表中番村分、弐表下番村分

同十日

一当八日ニ大文字や源介と申合候ハ、右菅野村出入之事、金津方四人之嘱人、此方三人之与頭共と此度之嘱初・中・終書立候而如此相談ニ而嘱申処、若双方相違之事有之候ハ、七人之者共壱所ニ成候而、何方迄も此相談之通相済可申と証文取替し嘱可申候、併思案之上重而相談可仕と申合候処、今日源介方ゟ右之相談成申間敷由書状を以被申越候

一金津宗兵衛・三郎右衛門方ゟ書状遣し候

一布目彦兵衛方ゟ書状遣し候

一菅野村庄屋長百姓ニ返答書為持、今日之内舟寄へ遣し候様ニと御配符被遣候付、其段菅野村へ申遣候

同十一日

一昨日御配符被遣候ニ付、菅野村之者共今日舟寄へ可参由ニ而罷出候故、我等も矢地迄罷出候而舟寄ニ而之首尾申聞せ、其上金津ニ而之頃日嘱之様子、右之山証文なしニ三ケ月相待候而金子を以山可相渡との事実正ニ候ハ、、証文之代ニ菅野村ニ而弥介持高を質物ニ被相渡候ハ、、証文なし被成被下候様ニと申付、則舟寄へ菅野村之者共相談之事御座候付、指越不申段御断申遣し、村之者共留置候而金津へ参、右之趣宗兵衛・三郎右衛門ニ為申聞候へハ、高之義ハ其沙汰隠有ましく候へハ、何とそ金子を以右之質物入置申様ニ申付、左候ハ、其段相談之上重而返事可申と申、罷帰ゟ菅野ニ而右之様子申聞、とかく舟寄へ参舟寄ニ而御相談可申候間、明日舟寄へ可参由申候

同十二日

一菅野村之者共舟寄へ召連参候而、金津宗兵衛・三郎右衛門望之様子申上候へハ、尤左様ニ仕山善兵衛相渡、弥介籠舎被免事ニ候ハ、一段之事ニ候へ共、山渡候上ニ弥介免不被申候へハ其時何と可申様無之候間、菅野ゟ返答指上させ候而、其後かけ返答共ニ御公儀ゟ乞請候而曖ニ仕可然候、先其内ハ源介ニあい、右曖段々慥ニ相究候様ニと被仰渡候付罷帰候、菅野之者共ニ曖ニ成候ハ、右申通金子出し候様ニと申渡候

同十三日

一東善寺村次右衛門・二郎右衛門参、金津喜右衛門持高を買取候処田畠甚右衛門方ゟ相渡不申迷惑仕候、相渡候様ニ被仰付被下候様ニと申し、其上喜右衛門方ゟ高かい証文見置申様ニと申出し候処、其証文ニ高拾四石壱斗弐升五合代金拾両弐分ニ而永代売渡し申との証文ニ候故、御高永代売買御法度ニ候へハ、此証文仕かへ候而可然候、御法度之義を見なから其通ニ仕候へとハ不被申候と申渡候

一同晩ニ金津藤右衛門方へ参、宗兵衛・三郎右衛門・弥次右衛門ニ相(会)候而、菅野山出入曖之段々相談いたし、重而山買返し候迄金子質物ニ入可申候、若山買返し申事不罷成候ハ、質物ニ相渡し申候金子取返し申間敷旨堅相定候、則藤右衛門方ニ布目彦兵衛共ニ泊り罷有候

同十四日

一大文字屋源介方へ参申候、最前曖破り候て菅野ゟ返答指上候処、出入之事各別弥介事難遁申上候、何共弥介義笑止千万ニ存候、最前申候曖之衆中究り証文も被成間敷由、此上ハ重而山慥売渡し可申との書状之取替しニ而曖申度候、然ハ此曖三色之内、山善兵衛ニ渡可申との事ハ善兵衛望事ニ候へハ不及申ニ、其外弥介出籠之事、重而山買返し申事、慥ニ相違無之様ニ相極候ハ、曖ニ取懸り可申と申候へハ、とかく六右衛門殿と相談之上重而可申入由

一三郎右衛門・宗兵衛ニ右質物金弐拾両山買返し申節ハ金五・六両合力ニ而、相残分ハ返し可申由彦兵衛共ニ慥ニ契約いたし、藤右衛門方ニ泊り十五日ニ罷帰

同十五日

一金津ゟ罷帰候節、菅野半右衛門方ニ而長百生共ニ宗兵衛・三郎右衛門約束之様子申聞候

一東善寺村長百生共参、喜右衛門高為村中とかい可申由、右ゟ相談ニ候へハ、今以右之高かい不申候てハ成不申由断申候

同十六日

[　　]へ何れも与頭中寄合、御廻米上乗并三国立合相究、上乗下関与三兵衛、六番め立合東善寺村甚右衛門、三十日かハり

一菅野出入之事申上候、其内返答認候様ニと被仰渡候

一東善寺久兵衛御詫言申上候へ共御聞届無之候、日帰りニいたし候
一頃日端々ニやせ候犬相見得候間、兼々申触候通弥念を入やせ不申
候様ニ可被致養育候、此旨御老中被仰渡候間可被得其意候、此廻
状留り方ゟ志摩守方へ可被相返候、以上

二月十六日　諸星伝左衛門（諸星忠直・勘定吟味役）
荻原彦次郎（荻原重秀・勘定吟味役）
井戸志摩守（井戸良弘・勘定奉行）
稲生下野守（稲生正照・勘定奉行）
松平美濃守（松平重良・勘定奉行）

右之趣口上を以村々庄屋長百姓ニ申付候様ニと被仰付候

同十七日
同十八日
指上申一札之事

一越前国去戌之御納米当亥之春江戸江御廻シ被遊候ニ付、私共義
浅草御蔵納人ニ被仰付江戸へ罷下り候、右御米江戸着船水揚仕
御蔵へ納候節諸事大切ニ相勤可申候、尤欠米撰出シ、米之義別
而念を入御後闇義不仕、百姓中費も無之様ニ勤可申候、若不埒
成勤方仕候ハ、、御吟味之上何分之越度ニも可被仰付候事
一越前出立ゟ江戸逗留中越前帰着まて毎日之諸入用帳面ニ印、尤
払方請取手形取、諸事勘略ニ仕、一銭ニ而も奢ケ間敷事不仕正
路ニ割符可仕候、御用仕廻罷帰諸入用割符之節、費成遣方仕候
ハ、勘定ニ立申間敷候、其上如何様之越度ニも可被仰付候事
一給銀之義者壱人壱ケ月ニ金（マヽ）宛ニ相定、此外上下道中旅籠・
駄賃共ニ金（マヽ）請切候、并江戸御逗留中之扶持方湯銭者、浅
草御米宿方ゟ之書出し目録を以御勘定仕立可申事
附り、納庄屋弐人之内江戸御蔵前ニ而升取可仕候
右之通手形指上納人ニ罷下り候上者、如何様之悪事御座候共本人
者不及申上ニ請人并諸親類ニ御懸り可被遊候、其時一言之御断申
上間敷候、仍為後日如件

元禄八年亥

納人坂井郡後山村　源兵衛
請人同村　新兵衛
納人坂井郡東長田村　喜右衛門
請人同村　伊右衛門
同郡与頭下兵庫村　武兵衛
同郡与頭布目村　彦兵衛
同郡与頭前谷村　次郎左衛門
同郡与頭東長田村　喜左衛門
同郡与頭後山村　茂右衛門
同郡与頭舟寄村　善右衛門

右之通継証文ニ而指上申筈

一大文字や源助方ゟ書状参候付罷越候へハ、菅野村出入之事右ゟ申
通山者跡之通善兵衛ニ為持、弥介籠舎御免被成、壱弐ケ月過候而
山ハ代金ニ而善兵衛方ゟかい取申ニ付、其間源介方ゟ手紙取置候

而噯可申内証ニ而相究候ニ付而、布目彦兵衛・舟寄善右衛門・後山茂右衛門、明十九日ニ金津迄噯ニ被出候様ニと書状遣し候

同十九日

一金津参候而新屋宗兵衛・小嶋三郎右衛門方ゟ金子弐拾両預り申ニ付手形遣し候

預り申金子之事

合金弐拾両

右者菅野村地之内し、かはな山之義ニ付平野屋善兵衛と菅野村と出入ニ相成候処、此義ニ付平野屋弥介籠舎ニ仰付候ニ付而弥介殿へ御家中被申候ハ、何様ニ被成候而も此出入下ニ而相済し、御詫被成被下候様ニと一向御頼ニ付我等噯罷出候、右之山当五月中ニ善兵衛方ゟ買返し於申ニハ、右之金子之内二而五六両御合力可有候、残金ハ返し可申候、若五月中迄ニ山かい返し申義ニ付障り出来致し買返し申事成不申候ハ、、右山代として菅野村へ相渡し、菅野村庄屋長百生之証文と此手形と引かへ可申候、右之通五六両之御合力二而相済申候ハ、、残金何れもへ返し申節此預りと引かへ可申候、御家中御相談之上互ニ納得二而ケ様ニ仕候故ハ、以後申分出入御座有間敷候、以上

元禄八年亥三月十九日　　土屋次郎左衛門　印

新屋宗兵衛殿

小嶋三郎右衛門殿

態致啓上候、菅野村地之内し、かはな山之義ニ付、北金津平野善兵衛と菅野村と出入ニ罷成候、此義ニ付平野屋弥介不届有之籠舎被仰付候由、然者此出入噯ニ仕相済申度候、山者先規之通善兵衛ニ為持、弥介義ハ出籠被仰付、扨右山之義者来五月中迄ニ代金拾両ニ而善兵衛方ゟ自分方へ売渡し申定ニ而噯申度候、此趣於御同心ニハ御報ニ可被仰聞候、早々罷出噯可申候、恐惶謹言

三月十七日　　土屋次郎左衛門

大文字屋源介様

右之通書状遣し源介方ゟ返状取置噯ニ罷出候、返状有之候

取替シ申証文之事

一菅野村山之内し、かはな山、北金津平野屋善兵衛先祖買取数代当善兵衛迄持来候処今度山出入ニ成、上之御了簡ニ罷成候処、我々罷出下ニ而噯申度旨願申上候ヘハ御下シ被下候、依之右之山弥先祖之通善兵衛支配可致候、山手銀之義者壱ケ年ニ四拾匁宛前々之通り菅野村庄屋方へ相渡し可被申候、扨又七年以前巳ノ暮ゟ戌之暮迄之山手銀者ケ様噯候而相済申上ハ、善兵衛出し被申ニ及不申候、以来此山之義ニ付菅野村百姓共何角と申者御座候ハ、我々罷出相誘、とかく之義為申間敷候、為後日噯証文仍如件

元禄八年亥三月十九日

前谷村与頭　次郎左衛門　印

後山村与頭　茂右衛門　印

布目村与頭　彦兵衛　印

北金津町　平野屋善兵衛殿

右証文之通源介判形ニ而証文取置候
一茂右衛門・彦兵衛・善右衛門・我等四人罷出、弥介籠舎御詫申上出籠いたし候

同廿日

一三田村六右衛門殿、松田弥兵衛殿へ参弥介出籠之御礼申上候
一右出入相済由舟寄善右衛門を以御陣屋へ申上候、彦兵衛・茂右衛門・我等共ニ三人ハ三国へ参、勘介様・藤太夫様へ出入相済候由申上候へハ、其内菅野村之者共返答持参仕候付出入曖ニ而相済候間、其儀可被仰渡候間罷出候様ニと申召連御両人様へ罷出、様子申上候へハ返答も御請取候而右相済候様子被仰渡、菅野村之者共罷帰候

同廿一日

一御廻米御用ニ三国ニ逗留いたし候、麦屋方ニ泊り罷有候

同廿二日

一下関与三兵衛・三郎右衛門・三国へ参、甚兵衛質高酉暮切ニ而流高ニ候処、代物理不尽ニ持参仕抱置罷帰候ニ付、代物吉右衛門ニ預ケ置候処、只今田地甚兵衛打開申由断申ニ付、断之上埒明候而田地打開可申、理不尽ニ仕間敷由はいふ遣し候

同廿三日

一菅野村之者共召連舟寄へ参、出入曖ニ而相済候由御断申上候、彦左衛門様御聞被成一段之事ニ候と被仰候、次ニ最前菅野村之者出入仕江戸へ可参由口書指上置候ニ付、申下シ我等方ニ預り置候、
同十右衛門・弥五右衛門口書も申下シ預り置候
一菅野村庄屋長百姓舟寄善右衛門方ニ而申候ハ、只今彦左衛門様被仰候ハ、重而山相渡し申時分二郎左衛門指図次第ニ相談仕候様ニと被仰候義何共無心元由申ニ付其義別義ニ而無之候、兼而申通山菅野村之支配ニ仕候上ハ出入ハ理運ニ候、然ハ江戸へ出入ニ参候と存路銀を出し候へとの義ニ付右之通被仰候と申聞候へハ、菅野八郎兵衛申候ハ、最前村々庄屋中ニ被仰越候ハ、銀少も出し不申曖可申と被仰越候由庄屋中申候、然ハ只今銀子出し申事成不申候と申ニ付、三月二日夜久左衛門方ニ而申渡し被□此出入右之山さへ善兵衛ニ不相渡候ハ、、出入ニ付江戸へ何れも不参と被存路銀被出候哉と申候得ハ、路銀之事ニ候ハ、何様ニも出し可申と被申候、残長百生中慥ニ覚へ可有候、次ニ三月十五日半右衛門方ニ而此出入曖ニ而相済候故ハ、右申通路金四五両被出候様ニと申渡候と申候へハ、久左衛門・半右衛門者両度之被仰聞候義承候と申候
一見馴さる魚・鳥獣之証文御勘定所へ上ル
一東善寺村久兵衛御わひ事申上候、舟寄ゟ罷帰ル

同廿四日

一御用ニ付菅野村庄屋長百姓参候様ニとはいふ遣し候へハ、半右衛門宿居不申候由断ニ参候
一金津惣兵衛・三郎右衛門・弥次右衛門三人弥介出籠之礼ニ参候
一東善寺二郎右衛門・太郎右衛門・久兵衛詫言ニ参候
一御廻米先割三匁銀指上候様ニと御配符参候
一三国立合共方ゟ御米納り不申由御役人様ゟ被仰付候間、せんき仕候様ニと申越候、并中札書候而持参可申候、御米三国へ渡し置候主之書付持参候様ニ村々へ申付候様ニと申遣し候
一右弐ツ之配符後山へ遣し候
一右両通配符之通村々へはいふ遣し候

同廿五日

一右之通申触候付村々庄屋参候付、御廻米之事、先割三匁之事、中札之事、堅申渡候
一菅野村出入嘘ニ而相済候処、嘘之銀子出シ申間敷由廿三日ニ舟寄ニ而八兵衛申ニ付、右ゟ段々申渡シ四五両之金子ハ出し可申覚悟ニ可有之処、只今嘘ニ成事相済申ニ付金子少も出し申間敷と我か儘申候、嘘事ハ何時ニ而もやふられ申様ニ仕置候間、嘘望ニ而無之候ハ、何様ニもやふり可申と申渡し候へハ久左衛門申候ハ、とかく村へ参相談をいたし明日返事可申来候由申ニ付、とかくの返事明日可申来候旨かたく申付候
一下関村吉右衛門・甚兵衛をめしつれ参候様ニと申遣候へハ、両人参候付此高之段々相尋候へハ、三年季甚兵衛持高与三兵衛ニ預ケ候へハ、酉ノ暮年季明申ニ付代物手前ニ無御座候付、証文仕かへ候て代物を貸置くれ候様ニと申候へハ、其通ニ可仕と被申何角と去年被申延、当春代金代米相渡申候処、田地打開候へハ何角と被申候と申ニ付、代物相渡し質証文取返し候へハ出入ニも成申間敷候処、証文を其通仕置候出入ニ成申し埒明不申、田地打開申間敷候断之上、証文を請返し候か若又出入ニ可仕との事ニ候ハ、書付を以可申上候、さなく候て理不尽之事仕間敷候と慥ニ申付候
一下関村七郎右衛門・長右衛門参申候ハ、長右衛門弟権四郎持高五石所持仕、酉未進金三両程ならてハ無之候処年内利兵衛与之者共何角と申利兵衛与引込候而、兄長右衛門ニ聞せ不申持高を太郎右衛門・七郎右衛門取候而、権四郎ハ行方相知不申、世倅弐人かつへニ及申候、御百姓つふし申義ニ候ハ、御断申上候様ニと年内被仰渡候処、何方へも御断不申上我かまゝ御百姓つふし申義御せんき被成被下候様ニと断申ニ付、太郎右衛門・七郎右衛門・庄屋・長百生めしつれ参候様ニとはいふ遣し候

同廿六日

一菅野村庄屋長百生相談之上、嘘破り申義今日返事可申由ニ而昨日罷帰候付、右嘘之通ニ請可申候哉、若又嘘破り可申候哉、早々返事申候様ニとはいふ遣し候
一矢地村霊順妻参候而申候ハ、霊順何角と難題成を申懸霊順を夫と

思ひ申ましくと申候、只今老候而行方も無御座候得ハ、霊順を夫ニ不存候而ハ村にたゝすみ申事も不罷成候、其上霊順持高ニ段々子細も御座候ニ付其義申候へハ、御公義様へ申上高取申筈ニ候ハ、相渡し可申候と申家を追出し申ニ付、御訴訟ニ参候由申来候、幸矢地庄や長百生御廻米之御用ニ参候ニ付、村ニ而せんき仕無理成義を申者ハ村はつし申様ニと申付候

一宮谷村権右衛門参、年内申上候十楽村又右衛門ニ下し山之儀申ニ付、近日宮谷村・十楽村之庄や長百生ニ申付、何とそ嘱ニ而相済候様ニと申渡し候

一下関村利兵衛・太右衛門・七郎右衛門参候而、権四郎持高質物ニ取候段々口書指上候

一菅野村半右衛門・久左衛門・八郎兵衛・甚左衛門・利兵衛参候而、右山出入嘱之金子少も出し申事成不申候と申ニ付、然者右之嘱やふり申ゟ外之事無之候間、明廿七日に何れもめしつれ候而三国へ可参候間支度可有候、勘介様・藤太夫様三国被成御座候付右ゟ之段々申上候と申付候

同廿七日

一下関村長右衛門・権四郎高之儀ニ付参候ゆへ、昨日庄屋利兵衛・太右衛門・七郎右衛門・権四郎上方ゟ壱両月之内ニ罷帰筈ニ候間、其節権四郎ニ段々御尋可被下、其内妻子かつへニ及候ハ、介抱可仕由口書指上候ニ付、其段申聞せ候へハ、左様ニ権四郎も壱両月の内ニ罷帰、其内妻子もかつやかし申間敷との事ニ候ハ、先其通ニ可仕と申罷帰候

一矢地村長百生共参、霊順夫婦言分之事村中寄合せんき仕候へ共何共不埒之由申来候ニ付、とかく様子村中として聞届候而、村中之異見聞不申方を村はつし可申と申付候

一山室村ゟ仕出し申御廻米改ニ参候様ニと断有之ニ付、権右衛門遣し候へハ御米悪敷候由ニ而、先仕直し候様ニと申付罷帰り候

一菅野村久左衛門・半右衛門・甚左衛門・八郎兵衛・利兵衛昨日参、嘱之金子少も出し申事成不申由申ニ付、然ハ勘介様・藤太夫様へ其段可申上候間、何れも三国へ同道ニ而可参由昨日申渡候付、三国可参と存候故後山村茂右衛門殿も三国へ御越候様ニと申遣、我等義ハ先ニ菅野迄参候処、十楽村又右衛門・五十郎・彦四郎御廻米御用ニ参候由ニ而矢地ニ而あい申ニ付、菅野村ニ而御金も請取可申候間被罷帰候様ニと申同道ニ而菅野迄参、道通出入嘱之物語いたし、半右衛門方へ参三国へ参候事何角と申罷有候、然共長百生共とやかくといたし罷出不申候ニ付、我等儀ハ十右衛門方へ立寄候へハ其内久左衛門参候ニ付、三国へ参嘱やふり申事申候ハ、可為御立腹と申ニ付、金津舟寄と御心を御合候而出入相済候処、只今ニ成右之金子を出し不申嘱やふり可申と申上候ハ、首尾能事ハ有間敷候間、久左衛門義ハ嘱を請候而久左衛門与高百八石之分金子を請申様ニと異見いたし候へハ、是ニ而御請申候ハ、残者共久左衛門を相手之様ニ可申候間、三国へ参御役人様御せんきの上、

成ほと高当り之金子出し可申由申ニ付、尤ニ候間其通被致候様ニと申付候処、茂右衛門殿御簾尾村市郎右衛門同道□(ニカ)而十右衛門方へ御越候而、市郎右衛門も右嘱様子承候而、幸十楽之衆中居被申事ニ候ハ、半右衛門ニ異見いたし為取除可申と申、半右衛門方へ参村中を寄せんき仕候由にて、又右衛門・五十郎・彦四郎・市郎右衛門参候而、山さへ御渡候ハ、金三両出し可申由何れも村中申候間、山を無相違御渡し可被成候由、然ハ其節我々慥ニ金子出し可申と請合申ニ付、右ゟ此出入嘱ニ成申故ハ、五両三両之金子出シ申様ニと申渡候へハ、金子四両出し不申候而ハ成不申候間、其通何れもへ被申渡候様ニと申候へハ、何とそ三両ニ而事済申間敷候哉と何れも被申ニ付、此度本金拾両ニ相済申ニ付五両ハ与頭中引かへ被申、壱両ハ十右衛門・弥五右衛門出シ申筈、然ハ四両出し不申候而ハ成不申候と四人中へ申候へハ、山さへ無相違御渡し之節我々罷出、何様ニも相談仕其方へ御損ハかけ申間敷と申ニ付、其通ニ候ハ、三国へ参候事やめ可申と申、菅野ゟ茂右衛門殿同道ニ而罷帰り候

一菅野村久左衛門御廻米中札ニ庄屋と書候而出し申度と申ニ付、去年ゟ半右衛門与をはつれ郷蔵預り米も別々ニ仕候故ハ、何様ニも庄屋久左衛門と書出し候様ニと申付候

一本多飛騨(本多重益)守様御預ケニ被為成候由、昨夜江戸ゟ御飛脚参候由ニ而丸岡騒動いたし候

同廿八日

一今度丸岡一巻ニ付村々大小之百姓ニ不寄丸岡へ罷出無作法之義仕間敷由、かたく申付候様ニと舟寄ゟ御配符被遣候故、与下村々へはいふ遣し候

一三匁銀急々指上候様ニと御はいふ被遣候付与下村々へ申遣候

一東善寺久兵衛詫言ニ次郎右衛門参候付、舟寄善右衛門方へ手紙遣し候

一御廻米半米与中壱所ニ出村甚左衛門ニ託候付、直段壱表ニ付丁銀拾七匁六厘四毛と村々はいふニ而申遣し候、則村々米高・銀高書付申触候

同廿九日

一先夜九ツ時分三国袋町専了寺前出火ニ而家弐拾軒程焼失いたし村々ゟ御米を出し置麁相成蔵へ入置申事危敷候間早々御米入申様ニと御役人様被仰付候由ニ而布目彦兵衛方ゟ被申越候付与下村々へ右之通申触候

一村々ゟ丸岡御城下へ猥罷出申間敷由、証文案紙舟寄ゟ被遣候付、村々庄屋長百生印判持参候様ニと申触候

一村々高札場見苦候ハ、拵直し、捨馬等之札万一無之候ハ、是又改懸置申様ニ急度可被申付候、且又往還道・橋損シ候所有之ニをゐてハ造り申様ニ可被致候、右之趣被申渡、其上ニ而各組下相廻り改可被申候、以上

三月廿九日　　山田勘介
川原彦左衛門　印
村々与頭中

此配符留り之方ゟ可被相返候
一御廻米三匁銀早々指上候様ニと、且又御口米手形書直し候様ニと別紙御はいふ被遣候

同晦日

一矢地村清兵衛ゟ最前銭銀拾匁預り、此丁銀八匁七分五厘、此内ニ而弐匁者暮盛銀不足ニ取、六匁七分五厘残銀三匁銀ニ手形遣し候
一三国火事之御見廻ニ参、麦屋太兵衛方ニ泊り罷有候
一下番村吉右衛門義、彦四郎代役当年ゟ為致不申、彦四郎方ニ手代を抱御用等相勤させ可申由、大連三郎左衛門と相談究候、則右之段金津へ御断ニ我等方ゟ可申上と三郎左衛門方へ申聞候
一東善寺甚右衛門三国立合替り申度由願申ニ付、其段御役人様方へ申上候へハ為替候様ニと被仰付候、其通甚右衛門ニ申付候

卯月朔日

一北金津平野屋弥次右衛門三国迄参候而、菅野弥介下田地菅野村之者共作り不申候由断申ニ付、其段勘介様へ申上候へハ、菅野村之者共当三日ニ舟寄へ参候様ニと御はいふ被遣、則彦左衛門様へ右之通被仰遣舟寄ニ而被仰付筈ニ候、三国ゟ罷帰り候ニ付右之勘介様御はいふ矢地ゟ菅野村へ遣し候
一長崎堤御普請ニ十郷之内与下村々人足出不申候由、大連三郎左衛門方ゟ断申上候間、人足出し候様ニと可申付旨舟寄ゟ御はいふ被遣候

同二日

一右堤人足之儀、大連方ゟ割之通人足出し候様ニと村々はいふ遣し候
一下関村三郎右衛門、同村甚兵衛方ゟ預り高之義村中曖ニ而相済候由庄や七右衛門・与三兵衛断ニ参候付、曖証文指上候様ニと申付候

同三日

一御廻米壱石ニ付三匁銀之内拾八両三分北野久左衛門ニ遣し候、人足ハ矢地村ゟ為出舟寄へ遣し候へハ、内壱両山室村上ケ金之内ニ而悪金有之返り候ニ付、残而拾七両三分御手形請取置候
一丸岡御城下罷出申間敷旨被仰付、則村々証文取舟寄へ指上候
一口米代銀八木忠兵衛方年内与中惣かりニ仕金子指上、其節村々へ相断候而与中壱枚御手形ニ而請取置候を八木忠兵衛方へ質物ニ入置申ニ付、只今村々へ切わけ村々庄屋証文ニ仕候様ニと忠兵衛并御役人様方ゟ被仰付候付、三四日之内ニ手形書立、忠兵衛方ニ有之候証文と村々証文引かへ可申旨断申入候、則鎌谷豊右衛門を頼

証文為書申候、壱枚ニ銭四文村々ゟ豊右衛門方へかミ代・書ちんニ遣し候

一今日菅野村之者共平野屋弥介下田之義ニ付舟寄へ被召寄候ニ付、御断申上私ハ不参候

一舟寄善右衛門方ゟ上乗証文之写被遣候

一東善寺甚右衛門立合之かわりニ田中村伊左衛門三国へ遣し候

一東善寺村久兵衛詫言ニ次郎右衛門参候

同四日

一昨三日ゟ今日迄ニ蔵之から（空）木立仕候

一矢地村七郎右衛門方ゟ断申候ハ、霊順御廻米も村壱所ニ仕立不申、壱石ニ三匁銀も相済不申候由断有之付、御米何様ニ仕入候哉、三匁銀ハ何とて入不申候哉、吟味いたし候様ニとはいふ遣し候

一金津平野屋弥次右衛門参、菅野村持高田地下し方之義いか様ニ被仰付被下候哉と申ニ付、昨三日ニ菅野村之者共舟寄へ被召寄候へ共、如何様ニ被仰付候も様子不承候と申候得ハ、尤田地請候様ニと被仰付候様ニハ承候へ共其義御請不申由、然ハ小作人共是呼寄候而一通詮儀仕くれ候様ニと申ニ付、其儀ハ舟寄ゟ被仰付無之候へハ、殊其方ハ他領之仁候へハ大勢呼寄申事も不罷成候、とかく其元御郡所へ様子被申上、此方御断之上ニ候ハ、何様ニもせんき可有事ニ候間其通ニ可被致候、此方自分之吟味かハり申事も無之由申渡し候

同五日

一東善寺村甚右衛門三国立合代り罷帰候由断ニ参候

指上申手形之事

一越前国御代官所去戌之御年貢米江戸廻御城米上乗何村誰被仰付候、御米三国湊ニ而船頭と立合請取舟積仕、米員数手形別紙ニ指上申候、従御公儀様出申候船中御条目之趣急度相守可申事

一船中ニ而御城米成程大切ニ可仕候、若遭難風打米仕候ハ、先養米を捨させ可申候、養米不残捨候而も難風強及難儀申候ハ、、見合御城米を捨候様ニ被仰付承届申候、難風之砌打米仕候節養米少成共残シ置御城米捨候ハ、、後日ニ御聞被遊候共船頭同罪可被仰付候事

一船頭・水主申合少ニ而も御米盗取間敷候、浦々ニ而御廻米之内密々ニ売候而、江戸へ着岸仕買調足米仕候か、又ハ自分之飯米等ニもいたし買調ニ仕候と後日ニ御聞被成候ハ、、御穿鑿之上拙者義者不及申上、諸親類并請人之者迄何様之曲事ニも可被仰付候、自然船中ニ而飯米ニ指詰り申候ハ、浦々ニ而買調可申事

一船頭・水主・かしきニ至迄御米ニ対シ悪敷義仕候か昼夜心を付可申候、自然海上永逗留ニ而養米致不足、御廻米之内先飯米ニ仕江戸ニ而買調ニ仕度と船頭・水主申候共、用不申浦々ニ而為調可申候、若船頭申通御廻米之内飯米等ニ為仕候ハ、、如何様之曲事ニも可被仰付候事

附、船頭・水主方ゟ何ニ而も一切音物賄請申間敷候事

一浦々ニ而船頭・水主と申合自分之商売荷物廻船ニ為積申間敷候、若船頭・水主等拙者申義承引不仕我儘ニ余之荷物積申候ハ、、其所之庄屋方へ相断、其上於江戸有躰ニ可申上事

一三国湊出船江戸着之内、何之浦津ニ而も日和能時分船頭と申合、船掛り半日之逗留も仕間敷候、并船中ニ而拙者儀者不及申上ニ、船頭・水主等ニも壱銭之遊ひニ而も賭之諸勝負為仕申間敷候事

一日和待汐掛り之浦々ニ而送状為致披見、滞留之子細其所之名主方へ断帳ニ付候様ニ船頭へ可申渡候、私義も出船ゟ江戸着迄之日帳付可申事

附、浦々湊々ニ而逗留之時分、遊女船中へ呼入遊山かましき義仕間敷候、勿論其所江上り遊山仕間敷事

一御廻米三国湊ニ而船積之節、俵毎ニ御役人衆封印被成候而御渡船積被仰付候、江戸へ着岸いたし候ハ、早速御注進仕、御蔵所江水揚之時分封印之御改を請、越前にて請取申俵高無相違御台所へ水揚可致候、但各別之減俵御座候ハ、御穿鑿之上弁上納可申事

一於浦々湊々ニ遭難風破船仕候ハ、、其浦之御役人衆へ為告知破船之品々委細書付浦手形を取、江戸・越前之内近キ方へ御注進仕、其上沈俵披(被)捕揚、御用ニ難立大濡米者為干、所之者立合升目・俵数相改証文取置可申事

附り、沢手米・濡米御座候ハ、無油断干候て、余之俵へしめり不移様ニ相廻シ可申事

右之通手形指上此度上乗ニ参候上者、三国湊出船ゟ江戸着船水揚仕候内悪事出来申候ハ、、本人之義者不及申上請人并ニ諸親類共ニ御掛り可被遊候、御米可相弁子細御座候ハ、、是又本人者不及申上ニ親類并ニ此連判之者共急度相弁可申候、其上何分之曲事ニも可被仰付候、為後日之手形指上候処仍如件

元禄八年亥

上乗何郡何村　誰印
何村請人　誰印
何村庄や　誰印
何村庄や　誰印
組頭何村　誰印

右ハ続証文ニ而与中庄屋共不残加判仕筈ニ候

一内談之儀有之候間明六日ニ兵庫大善寺迄、何れも与頭中寄申様ニと兵庫武兵衛ゟ廻状参候付、則後山茂右衛門殿へ遣し申候

同六日

一下兵庫大善寺へ与頭中寄、近日丸岡従江戸御目付衆御越被遊候而、自然御代官所何角御尋有之候ハ、可申上品々相談仕候、則村々庄屋中へも有増可申含筈ニ候、兵庫村武兵衛方ニ泊り七日ニ罷帰り候

丸岡御城請取　土井甲斐守様(土井利知)

四月十三日ニ古市御泊り、十四日ニ長崎、舟寄ニ御昼休被成、其内丸

岡へ御断ニ而御請取由

御城代　分部隼人正様（分部信政）
御上使大御番頭　成瀬滝右衛門様（成瀬重章）
御目付　渡部弥之介様

右ハ四・五日指廻御越之由

右之通舟寄善右衛門ゟ申来候

同七日

一御口米・御口銀かり手形相究可申候間、村々長百生印判を持明後九日ニ被参候様ニとはいふ遣候

一来ル十一日ニ舟寄へ参候様ニと与頭中と申合候

一菅野村三郎左衛門、丸岡浪人衆四五日之内宿かし申度旨断申ニ付、四五日之逗留ニ候ハヽ、御訴訟不及申上指置候而も苦かるましく候哉、丸岡御浪人之事何之被仰渡も無之、併御法度之節ハ早速為立退可申由、并此浪人ニ付村中費之儀も無之、其上何様之子細候共村中罷出相嘲可申との証文庄屋長百生可仕候哉、村ニ而相談被致候様ニと申渡し候

一銀壱匁四分四厘　戌年村もり銀
一銀壱匁五分壱厘　同御蔵前入用銀
一銀壱匁弐分八厘　御廻米雑用先割
　三口〆四匁弐分三厘

右者矢地村霊順相済不申候由、庄屋七郎右衛門書出しを以断候ニ付、霊順呼寄吟味仕候ヘハ明八日ニ相済可申由請合申候

同八日

一竜雲寺へ参罷帰候節大文字や源介方へ参、鹿ケはな山何とそ近日うり申様ニ被成可被下候、愈山之埒明次第存寄有之由物語いたし候

一後山茂右衛門殿今日三国辺ゟ御帰りニ付御状被遣候ハ、跡々村盛之儀ハ帳面御代官様へ指上候ニ付庄屋手前ニハ帳面残し置不申候、扨又当御代官様ハ去年八月ゟ之儀ニ候ヘハ、少つヽ百生中間として指引御座候へ共、于今盛も不仕候ヘハ相知申事も無座候と、何れも庄屋中可申渡候事

覚

一常々被仰付置候事ニ候へ共、此節弥以大小家毎ニ無油断火之用心致候様ニ急度村々へ可被申触候、万一出火有之候ハヽ、火本者不及申ニ五人与一類共ニ急度可被付候間、此旨可申渡候、以上

四月八日　山田勘介
川原彦左衛門　印
与頭中
詣

一油屋武兵衛田中村ニ住宅相究候時之村へ取置候請証文、小兵衛徳右衛門方ゟ取寄候而相改見申候

同九日

一右御触被遊候火用心之事、何れも庄や中今日御口米・口銀かり手形究、又者近日丸岡之儀ニ付江戸ゟ御目付様方御越□□品々為相談之被参候付直談被申渡候

一笹岡村七右衛門蔵売申代金之内弐分預り有之ニ付、右之内ニ而三匁六分者御廻米雑用銀之内ニ請取申候、弐拾五匁九分壱厘ハ戌年舟寄大割之内不足ニ相済、残而四分九厘、銭ニ而請取、此算用惣左衛門と立合銀子指引ニ而宗左衛門印判仕候

一丁銀拾匁七分七厘（印）　十楽村彦四郎分

一丁銀三匁壱分四厘（印）　同村五十郎分

右ハ戌暮盛銀引かへ銀指引算用いたし、過上銀亥春御廻米三匁銀ニ指次請取申し指引相済申候

彦四郎（印）

五十郎（印）

一丁銀弐匁、十楽村五十郎ニ当座かしニいたし候

一十楽村両庄や菅野村出入山代金、廿日迄支度いたし候様ニ申付候

一矢地村霊順、妻理不尽離別可仕と申追出し置候、右之□（旨カ）之段々候へハ理不尽離別被致候事迷惑之由訴訟ニ参候付、霊順参候様ニとはいふ遣し候

一下関村利兵衛分口米・口銀かり申証文質物ニ金三両弐分、戌十月十八日加藤茂左衛門様御手形壱枚ニ而入

十楽村両庄屋三匁銀盛銀之過と指引算用

一銀弐拾四匁九厘（十楽村分彦四郎御廻米三匁銀）

一銀拾五匁五分七厘（青野木分同人同断）

〆三拾九匁六分六厘

内

三拾匁　三月廿七日金弐分ニ而入

拾匁七分七厘　年内盛銀過ニ而入

〆四拾匁七分七厘

内壱匁壱分壱厘　過上銀五十郎分ニ入

＊一銀三拾弐匁三分壱厘（十楽村分五十郎御廻米三匁銀）

一銀拾三匁五分四厘（青野木村同人分同断）

〆四拾五匁八分五厘

内

三拾匁　三月廿七日金弐分ニ而入

七匁壱分四厘　年内盛銀之過ニ而入

内四匁　又右衛門そろはん代銀

壱匁壱分壱厘　彦四郎盛銀過ニ而入

七匁壱分　卯月九日ニせに（銭）ニ而入

〆四拾五匁三分五厘

残而五分　算用違ニ而不足有

「＊（貼紙）三拾弐匁三分壱厘　十楽分五十郎

拾三匁五分四厘　青野木村分同人（印）

〆四拾五匁八分五厘

内

三拾匁　入

七匁壱分四厘　もり過ニ而入

残而八匁七分壱厘　不足
内壱匁六分一厘　彦四郎へ渡ス
七匁壱分不足
弐拾四匁九厘　十楽分彦四郎
拾五匁五分七厘　青野木村分
〆三拾九匁六分六厘
内
三拾匁　入
拾匁七分七厘　もり過ニ而入
内壱匁壱分壱厘過　五十郎分　」

同十日

一金壱両壱分、戌十月廿八日轟木村戌御年貢之内加藤武左衛門様御手形ニ而預り置候、御口米借銀ニ不足いたし候付証文ニハ載不申候

一長畑村八兵衛・同村加兵衛籠舎仕候ニ付、御詫言をいたしくれ候様ニと申来候

一金弐分、戌十月廿二日西方寺村戌御年貢之内加藤武左衛門様御手形御口米借銀質物ニ入申候、遣権兵衛ニ而

一平野屋弥次右衛門申候ハ、菅野村庄屋長百生共ニ弥次右衛門田地請作ニ仕候様ニと、今一返申付候様ニと申候得共、最前御役人様被仰付候事さへ相背申者之義ニ候へハ、我等申付候分ニ而ハ承引仕間敷候、左様ニ申付請作可仕様ニ庄屋共申事ニ候ハ、、半右衛門・久左衛門参其段申候ハ、長百生共へ可申候へ共、弥次右衛門之申分ニ而ハ菅野村へ申事ハ成不申候と申候

一新屋宗兵衛方ゟ書状以而申越候ハ、宗兵衛青野木村ニ而高拾石余十楽又右衛門持高去春請取候、田地之内はちか坪と申所田壱反去年宗左衛門と申者ニ下し為致候処、其田十楽村五十郎理不尽ニ打開作申候ニ付、去春右之高取申節判人十楽村又右衛門・七右衛門・弥三兵衛・才右衛門・彦四郎、青野木村弥次兵衛・彦兵衛・甚右衛門・安右衛門・九郎兵衛方へ相断候へ共、何角と埒明不申候と断有之ニ付而、右判人之方へ埒明候様ニとはいふ遣し候

一下関村与三兵衛と甚兵衛高出入、最前庄屋長百生共噯ニ而甚兵衛方ゟ高代物之外金壱両、諸々かし物之内ニ与三兵衛請取申筈之、甚兵衛・庄や長百生証文ニ候へ共、只今ニ成金子相渡し申間敷と申ニ付御断申上候と申ニ付、庄や長百生右噯人方へ埒明候様ニとはいふ遣し申候

一大連三郎左衛門方ゟ長崎堤つき申節罷出候様ニと被申越候ニ付、何時ニ而左右次第ニ罷出可申と返事遣し候

同十一日

一下関村与三兵衛・甚兵衛高出入相済申由ニ而双納得証文相済候ニ付、則其証文を以此出入段々舟寄へ申上候

一舟寄へ参年内極月廿八日ニ与中御口米代金・御口銀共ニ而八木忠

兵衛方ニ而かり上納仕候ニ付、自分壱判之預り忠兵衛方へ入申ニ付、村々御口米銀口銀之分壱村切之証文庄屋長百生ニ為致、則御年貢金上納手形を質物ニ入候而、右与中壱枚御手形を忠兵衛方ゟ請出し、壱村切之御手形ニ書かへ請取申候、委細ハかけ(掛屋)やかり銀帳ニ有

一亥春御廻米壱石ニ付三匁銀不残相済申候、委細三匁銀取立帳ニ有

一戌年与下油屋役之義願状案文舟寄ゟ御渡ニ付、庄屋長百生ニ油屋ニ判形為致候而、其村々戌之御免状共ニ指上候様ニと被仰付候

一茂右衛門殿・彦兵衛殿・善右衛門殿を以東善寺久兵衛籠舎之御詫言仕候へ共、御承引無之候ニ付久兵衛・一門共ニ其段申渡候

一三月十六日何れも与頭中舟寄へ寄合候時、当御廻米立合人并上乗之義、御役人様三国御出候ハ、三国ニ而相究可然候哉と相談之上申出し候へハ、今日彦左衛門様被仰候ハ、御陣屋本を指置三国ニ而究可申と申候義無調法之由被仰候ニ付、当年御廻米不残三国ニ而仕立申ニ付我々も度々三国へ罷出申義ニ候へハ、其次而を以究候而ハいかゝと相談之上ニ申たる迄ニ御座候、三国左様之事究申義悪敷候と被仰候付、如御意ニ御請申候得ハ別ニ子細も無御座候と申分仕候得ハ御聞分被成候

一横落堤今日築申ニ付往還之下川へ成出申候、土を先年ゟ土俵ニ取申ニ付今度も先規之通ニ土俵ニ取候処、舟寄ゟ押候て十郷と出入ニ罷成候付、我等罷出出入ハ重而ともかくも可被仕候、先今日ハ大勢之人足之支ニ成候間、川へ成出し候所ハ土俵ニ少々取候而堤つき候様ニと十郷・舟寄両方申候而、其通ニ而今日堤つき立申候

一堤築申ニ付兵庫・大味・大口・其外村々庄屋共罷出候付当年ゟ吉右衛門を出し不申、彦四郎方ニ手代を抱唄候間、先夫迄拙者手伝仕候といつれも申渡候

一下関村理兵衛上ケ金ニ壱分悪金有之付、利兵衛ニかし分ニ而返し申候

一十楽五十郎・新屋宗兵衛方ゟ断之青野木村分はちかつほ田之義、断ニ参候由ニ候へ共舟寄へ参申候付あい不申候

同十二日

一菅野村三郎左衛門馬売ニ上方へ参度由最前ゟ断ニ候へ共、山出入之義ニ付右之山相渡し候迄ハ庄屋長百生へ他国へ遣シ申間敷由右ゟ被仰付候へ共、三郎左衛門義昨日も御断申上候へ共、先当分ハ遣し申間敷由被仰付候間今少相待候様ニと申遣し候

一新屋宗兵衛断之青野木村田之儀、十楽又右衛門方ゟ坪付をいたし相渡候田之事ニ候へハ、又右衛門罷出埒明候様ニと申遣し候

一金津平野屋弥次右衛門、菅野村之者共田地請可申由昨晩相究候ニ付為断之被参候

一戌年菅野村・柿原十楽村油役御赦免ニ付、願状指上候様ニと被仰付候故願状判形取申候

同十三日

一宮谷村半米代銀持参仕ニ付捨馬札遣し候
一十楽村五十郎新屋惣兵衛方ゟ断之はち□(か)坪と申田断ニ参、先年又三郎とかへ田ニ仕置候へ共、青野木村かへ田不残いつれもかへもとし、当春断を申かへもとし申由申候
一右田之儀ニ付又右衛門・彦四郎呼寄候而様々□尋候□、此義ニ付彦四郎両度新屋方へ参候へ共埒明不□(申カ)、此上ハ自分方ゟ新屋へ断申くれ候様ニ□(とカ)申付、新屋方へ右之田之儀ニ付相談之事有之候間、作介を此方へ御かし候様ニと申遣候
一東善寺二郎右衛門・長七、久兵衛事ニ参候
一矢地霊順・七郎右衛門畠境違申由訴状持参付、長百姓共へ為取次被申候様ニと申返し申候
一松竜寺雲秀長老、明日大谷村法福寺へ他参仕候由断ニ御越候
一八木忠兵衛方ゟ御口米代銀・御口銀かり申ニ付、戌之御年貢手形質物ニ入申ニ付、質札遣し候ニ付明日村々へ可相渡由はいふ遣し候

同十四日

一右八木忠兵衛方ゟ請取候質札、村々庄や中へ相渡し申候
一米弐斗五升七合青野木村御廻米半米之由、内弐合ハ公義前不足、弐斗五升五合ハ三ケ村之わりニ半米ニ成申ニ付此方詂被申候、此代丁銀ニ而拾匁九分七厘、内壱匁八分四厘、三匁銀過ニ而請取候内過銀ニ而請取、六匁当座預り、残而三匁壱分三厘不足
一米三拾七石弐斗弐合青野木御廻米欠米代共ニ此高六百三拾弐石四斗四升、但拾石ニ五斗八升八合弐勺三才つゝ、弐拾石弐斗五升七合青野木本村、拾石壱斗四升十楽村、六石八斗五合清王村
一菅野村・十楽村戌御免状ニ油役載申ニ付、右之油役御免被下候付御書かへ可被下由ニ而、右之御免状并油役御免被下候様ニと油屋共願状共ニ舟寄へ菅野村油屋ニ為持遣シ候、則御請取被成候との御返事被遣候
一金津新屋惣兵衛家来仁左衛門を呼寄候而、青野木村はちか坪田五十郎ニ相渡し、五十郎方ゟ相渡し候かへの田右はちか坪同年貢米ニ而五十郎請可申由申候間、其通ニ被致候様ニと仁左衛門ニ申渡候、則新屋へ書状遣し候

同十五日

一矢地霊順書付を長百姓取次くれ候様ニと申候得共、取次くれ不申と申断ニ参候、其内長百姓共参候ハ、其段可申渡候間被帰候様ニと申候
一新屋惣兵衛右之はちか坪田之儀ニ付参候ニ付、右之様子申入候へハ何角と不合点之由ニ候へ共断申、其上青野木村・十楽村右判人共を断ニて遣候間、其通ニ而相済候様ニと申合候
一権右衛門、三国御役人様方へ御見廻(舞)ニ遣し候
一新用弥五兵衛・馬場庄右衛門ニ東善寺村久兵衛・十右衛門出入曖申様ニと申渡し候

一当十日ニ新屋方ゟはちか坪田之事断ニ付、青野木・十楽両村之判人方へ埒明候様ニとはいふ遣し候処、判人方ゟ何之断も不申五十郎斗参候ニ付、今日又右之判人共罷出取噯不申候事不届之由申遣候、取噯候而も埒明不申候ハ、明日いつれも判人中被参候様ニと申遣し候

一大連三郎左衛門方ゟ書状参候、十一日ニ築申堤十二日之七ツ時分ニ切申由何角堤之儀ニ付相談有之ニ付、野中五左衛門・下兵庫村武兵衛・長田喜右衛門十八日ニ金津六左衛門方迄寄合申筈ニ候間、後山茂右衛門殿同道ニ而十八日ニ罷出候様ニと被申越候

同十六日

一大連方ゟ被申越候事後山へ申遣候へハ、十八日ニ金津へ罷出可申由金津長左衛門ニ御申越候

一下番五兵衛・中番茂右衛門・下番加右衛門、堤番人之事并舟寄何角出入之事申来候

一青野木村庄屋長百姓十楽五十郎と金津惣兵衛田出入之事ニ参候故、何とそ噯候而相済候様ニと惣兵衛方へ書状を添青野木之者共十楽之者共と同道いたし惣兵衛方へ参候様ニと申付遣し候

一権右衛門本庄ニ泊り候由ニ而今日罷帰り候

一菅野村おとなたち申者無断ニ他国へ出シ申間敷候と山田勘介様ゟ御手紙被遣候

一丸岡森平太左衛門殿ゟ笹岡ニ住宅仕度由書状被遣候、笹岡村ゟ訴出候ハ、相心得□(候)と返事与兵衛ニ相渡し候

同十七日

一新屋惣兵衛と十楽村五十郎田之出入、昨日青野木・十楽両村之庄屋長百生噯ニ而相済申由、十楽長右衛門断ニ参候

一右惣兵衛方ゟ仁左衛門ニ書状為持、右出入済申由断ニ参候、則双方噯人方ゟ証文取置候

一東善寺村次右衛門申来候ハ、久兵衛籠屋ニ而相煩申由、舟寄善右衛門殿ゟ被仰越候間、出籠之御詫言罷出くれ候様ニと申ニ付、相煩申を次而ニ御詫言いたし出籠仕候様ニ被成可被下由、舟寄善右衛門方へ書状遣候へハ、東善寺太郎右衛門・長七ニ善右衛門書状をもたせ被申越候、四・五日以前相煩申候間、罷出御詫可被仕候、善右衛門御詫ニ出可申も少遠慮之事も被申越候ニ付、太郎右衛門・長七と権右衛門相添舟寄へ遣し候

一矢地霊順、七郎右衛門と出入之書状長百姓中ニ取次くれ候様ニと頼候へ共、罷出不申候と三度断ニ参候ニ付、長百姓中へはいふを以申遣し候ハ、霊順七郎右衛門煩(畑カ)境違申由霊順書付持参候へ共、書付も見不申、様子も然と聞不申候、村ニ而吟味之上出入ニ可成事ニ候ハ、書付取次被申候様ニと申遣し候

同十八日

一東善寺村久兵衛籠屋ニ而相煩候段一門之者共願状指上候付、当分

出籠被仰付一門之者共預り申段、証文指上候由ニ而権右衛門罷帰り候

一十郷何角と申分共有之付、野中・兵庫・長田与頭中并大連三郎左衛門、金津古町六左衛門方迄寄合被申付参候ヘハ、廿日十郷村々大連方へ為寄候而弥庄屋共存入之通相談相究、其旨を以与頭中重而寄合相談相究可申由申候得ハ、右ゟ度々寄合いたし候へ共大分村数ニ候得ハ洗と揃不申、依之相談究不申と大連被申ニ付、与頭中面々与下へ大連方ゟはいふ廻り候ハ、早々罷出候様ニとはいふ遣し候、則茂右衛門殿我等両名付ニ前谷与・後山与共ニ廻し申候

一大連三郎左衛門と同道ニ而三田村六右衛門殿へ参、跡々彦四郎代ニ下番村吉右衛門を出し御用為勤候得共、彦四郎方ニ可然者抱置御用為勤、其上手代ニ而埒明不申義候ハ、拙者罷出可申と申上候ヘハ、何時ニ而も御用支申節二郎左衛門罷出可申との義、成ほと慥成事ニ候間右之願之通ニ可仕候、併彦四郎手代ニ抱置候者ニ依怙贔屓仕間敷との誓紙御取可被成由、彦右衛門（大宮茂富・福井藩金津奉行）様御意由六右衛門殿被仰候付、諸々ゟ大連ニ誓紙被仰付候例無御座候、其儀拙者方へ取置可申と申上候ヘハ、とかく手代抱候而其時之事と御申ニ付、其通ニいたし罷帰り候

一金津久左衛門方ニ泊り候

同十九日

一昨日丸岡森平太左衛門殿ゟ、帝尺堂近所ニ住宅仕度候間頼入候との書状被遣候付、今程松竜寺も無住、其上帝尺堂近所之地ハ中川村分ニ候ヘハ其内庄屋共相談可仕候、松竜寺へ居宅御普請中御入被成候事も相談可仕候、とかく御頼之上ニ候ヘハ疎遠ニハ仕間敷と返事遣し候

一村々御廻米早々入可申事、并御廻米半米代銀一両日之内ニ持参可有事、次ニ轟木村・下関村去戌之宗旨御改帳判形取可申候間、廿一日ニ惣百生之印判持庄屋長百生被参候様ニとはいふ遣し申候

一舟寄籠屋入用ニ候間、三寸四五分廻之竹拾四本持参為致候様ニと善右衛門方ゟ被申越候付、山室村ゟ遣し候様ニと昨日申遣候

同廿日

一十郷村々庄屋中大連彦四郎方へ寄合被申ニ付我等も罷越、去年迄ハ下番村吉右衛門、彦四郎名代ニ罷出候へ共、当年ゟ彦四郎方ニ手代を抱御用為勤可申候、先其内我等罷出御用手伝可仕候間、郷中其心得可有候と相断申候、何も尤之由同心ニ候、且又庄屋中相談之事、当廿四日ニ与頭中大味村迄寄合候而詮儀可仕旨、兵庫甚兵衛・東長田喜右衛門を以武兵衛・喜左衛門方へ申遣候、後山へハ我等方ゟ申遣候

一昨日我等与下村々十郷之分へ、廿日ニ大連方寄合被申様ニとはいふ廻し可被申候間、村□（々）庄屋ひま入候ハ、長百生ニ而も罷出候様ニとはいふ廻し申候処、新用・馬場両村ゟ不罷出候、重而せんき可仕事

一東善寺村二郎右衛門・久兵衛子参候而、久兵衛煩申ニ付いしやニかけ申度由断ニ参候付、出入下ニ而和談仕相済候様ニと段々申聞候へハ、久兵衛出籠被仰付村へ御返し被下候上ニハ、何様ニも御曖請可申由二郎右衛門申候

同廿一日

一宗旨帳之書様見申度候付、後山ゟ戌年中川・北村・十楽三ケ村宗旨帳取置申候

一下関・轟木戌年宗旨判取申候

同廿二日

一金弐両　宮谷村
一同壱両壱分　高つか村
一同弐両三分　山室村
一同弐両弐分　中川村
一同壱両壱分　田中村
一同三分　北村
一同弐分　北野村
一同弐分　前谷村
一同弐両弐分　笹岡村
一同壱両弐分　矢地村
一同弐両弐分　菅野村
一同弐両　青野木村
一同三分　清王村
一同壱両　十楽村
一同壱分　西方寺村
一同弐分　新用村
一同三分　馬場村
一同三分　東善寺村
一同弐分　谷畠村
一同壱両　轟木村
一同五両弐分　下関村

〆三拾壱両

右之通村々金高書留置村下ニ印判いたし順々可被相廻候、右御金御廻米運賃ニ相渡候間、来月十日迄ニ急度上納可被申候、以上

亥
四月廿一日　就御用他出　山田勘介
川原彦左衛門　印

村々庄屋中

此廻状相廻し留村ゟ此方へ返し可被申候、右之御廻米ニ添配符いたし村々へ遣し候

一東善寺村久兵衛相煩申ニ付、一門之者共御断申上籠番九兵衛迄御出し被成候へ共、九兵衛方ニ而ハ養生も成兼候間御在所へ御返し被下候様ニと願申ニ付、於舟寄右之段申上候へハ、勘介様明日三国ゟ御帰り可被成候間御相談之上願之通可被仰付候間、右一門之

者共ニ願状指上させ候様ニと被仰付候

一十郷長崎堤番人之義ニ付徳分田村九右衛門・上新庄茂左衛門訴状指上候由ニ而、十郷之内舟寄御支配村々庄屋共明廿三日ニ被召寄、様子御聞可被成由昨日御配符廻り候由承候ニ付御断申上候ハ、此番人之義往古ハ不存、五十年斗以前ゟ金津玉村六左衛門と申者三代相勤候、然共此番人之儀指而御公義様ニ不被遊、九年以前ニ右六左衛門番を上ケ、卯年ゟ徳分田宗兵衛・下番村長右衛門両人として二三年相勤、其後九右衛門・茂左衛門番人ニ罷成候、両人共ニ内蔵之介様御支配下之者共ニ御座候得ハ、念を入堤番能仕候様ニと証文御取被成候由承候、上郷斗ニ番人立候而ハ下郷ニ支申義御座候由ニ而、十郷四拾四ケ村之内三拾ケ村斗者上郷・下郷立合之番人を願申由、十ケ村余右之両人斗立可申由承候、下郷之願申義道理之様ニ相聞候、尤御支配下村々ハ御了簡も請可申候得共、福居領・丸岡領・松岡領・石田御支配下へハ難被仰付候へハ、用水奉行大連支配ニ可被仰付候、其上十郷相談之儀御座候付、明後廿四日ニ十郷之内支配之与頭大味村へ寄合申筈ニ御座候間、其節大連と与頭共立合相談之上様子可申候間、明日庄屋被召寄候義御指延候様ニと申上候へハ、則明日庄屋共罷出候事無用之由、重而御配符被遣候、何れも大連与頭中相談之ため右両人訴状写取候

一十郷用水懸り之品々江筋村立絵図仕、并大連勤方之段々書付指上候様ニと被仰付、五七日之内ニ右弐通指上可申と申上候

同廿三日

一菅野村三郎左衛門上方へ馬払ニ参度由最前ゟ申上候へ共、今度山出入洗と相済候迄ハ庄屋長百生他国へ参間敷由被仰付候ニ付、御断申上候へハ弥遣し申間敷旨被仰付候、依之三郎左衛門倅権太郎を上方へ遣し申度候間、馬通り手形出しくれ候様ニと申ニ付、手形相渡し候へハ舟寄ゟ被仰越候ハ弥吟味仕三郎左衛門倅ニ紛無之候ハ、、御書かへ切手相渡し可申由御指紙被遣候ニ付、弥右之通吟味仕候様ニと菅野村庄や中へ御指紙共ニ遣し申候

一明後廿五日之昼時分ニ舟寄御役所迄与頭共罷出候様ニと御廻状参候付、村次ニ而布目村へ遣し申候

一東善寺村二郎右衛門・久兵衛御詫言ニ明日罷出くれ候様ニ申来り候

同廿四日

一田中村ゟ金壱分請取、内拾三匁四分八厘御廻米半米代銀、壱匁五分弐厘ハ戌ノ暮盛銀不足之内ニ請取

一東善寺村久兵衛煩申ニ付、一門之者共願状指上候而在所へ当分御返し被成候、一門共預り分ニ候

一大味村へ十郷と舟寄と出入ニ付十郷支配之与頭共寄合候而、明日舟寄へ罷出候ハ、何も舟寄ニ而善右衛門存入も聞可申候由ニ候

一堤番人之儀、十郷上郷・下郷申分ニ候へハ、下郷ゟ番人を出し申候ハ、其通可仕由、舟寄ニ而可申上由ニ候

一溝江之郷長江下関分ほり不申候由、上関村七郎右衛門断申ニ付、七八年以前迄ハ五条堰ゟ下五本村之北、夫ゟ五分壱江を七尋縄ニ而壱縄宛、上関下関入込ニほり申候へ共、七八年以来ハ五条せきゟ五本村北迄上せきほり分、五分壱江ハ下関ほり分とわけ候へ共、本長江之江畦くへ候而毎年大分之ふしん仕候へ共、下せきゟ人足然々と出し不申候、然上者先年之通入込ニ掘可申と去年ゟ申合候処ニ、当年下関左様ニ仕間敷と申長江をほり不申候と断ニ候故、下せき村へ長江之儀ほり申間敷道理有之候ハ、、明後日我等方へ参候而様子申聞候様ニと申付候

一長田喜左衛門・兵庫武兵衛・後山茂右衛門ニ大連勤方之書付之下書何れもへ為見申候、若此分ニ而無之候ハ、被申候様ニと申候

同廿五日

一何れも与頭中舟寄へ被召寄被仰渡候段々ハ

一亥年宗旨御改帳都筑長左衛門様（都筑則次・鯖江代官）御支配之村仕立指上候帳面之通村別壱冊宛

一戌七月ゟ同暮迄諸遣帳村別ニ壱冊宛

一村々庄屋長百姓判鑑帳与切ニ壱冊

一今度丸岡へ諸役人様方御越被為成候ニ付、御扶持之用意ニ壱組ニ米五拾表宛、二三日之内支度仕置御触次第ニ舟寄惣右衛門蔵へ納申筈、則請取主善右衛門

一御上使様近々御着陣之由ニ候へハ、夫迄ハ村々ゟ上方へ馬売ニ参候事遠慮可仕候由

一喜左衛門、武兵衛、茂右衛門壱所ニ而我等申上候十郷堤番人之事、昨日大味村ニ而相談仕候処何角不埒ニ御座候、先年ハ只今之切米ニ而壱人相勤候、十ケ年以来ハ弐人ニ而相勤候、又当年ゟ三人ニ成候、十郷中之勝手ニも能候間其通ニも可被□（成カ）哉、只今御吟味之上御究可被成も、御支配下者其通、他領村々請合不申候ハ、何角御苦労被為成不入事候様ニ付奉存候と申上候へハ、成程其通ニ仕指置候様ニと被仰付候

右諸遣帳之案紙（但横帳ニ而）

高百三拾九石弐斗六升八合　前谷村

高割
一銀七匁三分三厘　舟寄大割

但是ハ籠屋作立申諸入用并籠番給所々飛脚賃、水夫代、方々御用人馬代共ニ

高割
一銀八匁壱分七厘　村諸入用銀

但是ハ諸人足指引わり、庄屋帳紙代共ニ

高半屋半之割
一銀三匁七厘　与頭給

但戌七月ゟ同暮迄

高半屋半之割
一米壱石五斗九升七合　庄屋給

但壱ケ年分

銀〆拾八匁五分七厘

米〆壱石五斗九升七合

右之通去戌七月ゟ同暮迄村諸入用銀、村中百姓立合吟味之上割符

仕候処相違無御座候、依之帳面判形指上候上ハ少も申分出入無御座候、此外銀米共ニ一切懸ケ物出不申候、為其惣百姓連判指上候処仍而如件

元禄八年
亥正月

前谷村
弥五兵衛
伝右衛門
清左衛門
二郎左衛門
六　介
長二郎
孫四郎
同長百生 六兵衛
同庄屋 市兵衛

村々庄屋長百姓判鑑帳　横帳ニ□□□

前谷村庄屋 市兵衛㊞
同長百姓 六兵衛㊞
北野村庄屋 久左衛門㊞
同長百姓 利兵衛㊞

右者村々庄屋長百姓持判御改ニ付判鑑指上申候、弥此印判を用へ可申候、若右之印判落シ候歟持失候ハヽ、印判相改早々御断を申上此帳面ニ載可申候、為後日仍如件

元禄七年

宗旨御改帳之案紙　竪帳村別

元禄八年
越前国坂井郡中川村乙亥宗門御改帳　上書
三月

村百姓壱軒

一浄土真宗表越前国坂井郡御油田村演仙寺㊞　家主 徳兵衛〇 年五十三
妻 年四十八〇
一同宗同寺㊞
男子 市兵衛〇 年二十六
一同宗同寺㊞
市兵衛妻 年廿二〇
一同宗同寺㊞
下男 太兵衛〇 年廿六
一浄土真宗東越前国坂井郡清王村照厳寺㊞
同 吉右衛門〇 年三十一
一浄土宗越前国坂井郡前谷村松竜寺㊞
下女 はつ〇 年廿□
一高田宗越前国坂井郡中川村西光寺㊞
〆七人内 男四人内何人五才以上何人五才以下 女三人五才以上

吉左衛門門百姓

一真言宗越前国坂井郡三国滝谷寺㊞　家主 小兵衛 年四十六
妻 年三十九
一禅宗越前国坂井郡中番村竜雲寺㊞

一法花宗越前国坂井郡金津妙隆寺㊞　　女子　は　る　年十八

〆三人内　男壱人五才以上
　　女弐人五才以上

家数合四拾壱軒内　拾四軒　本百姓
　　弐拾七軒　水呑百姓

人数合百八拾壱人内　男九拾人内　八十壱人五才以上
　　九人五才以下
　　女九拾壱人　五才以上

内
六拾五人　浄土真宗表　御油田村　演仙寺㊞
弐拾壱人　浄土真宗東　清王村　照厳寺㊞
三拾壱人　高田宗　中川村　西光寺㊞
拾人　右同宗　加戸村　本流院㊞
□人　真言宗　三国　滝谷寺㊞
五拾壱人　浄土宗　前谷　松竜寺㊞

右者中川村当戌之宗門御改如此ニ御座候、此帳面ニ書載申候人数之内御法度之宗門之者不及申、毛頭胡乱成者壱人も無御座候、下人并水呑百姓等之義者宗門請状主人方悉取置候を、庄屋長百姓者不及申五人与之内ニ而も慥ニ見届、其上御帳ニも寺判取指上申候、勿論村之内ニ有之男女老若当歳子等迄壱人も不残御帳ニ書載申候、壱人ニ而も隠置申候歟、又ハ御法度之宗門之者、紛有之候と申者御座候者、当人之義者不及申上ニ村中同罪ニ可被仰付候、為後日仍如件

元禄八年乙亥　　中川村庄屋　四郎左衛門
　　同　五郎左衛門
　　同長百姓　清　介
　　次郎右衛門

右御帳面之人数男女老若、壱人も不残代々拙僧共旦那ニ紛無御座候付人別ニ印判仕指上申候、若宗門之義付如何様之六ケ敷義出来候共、拙僧共罷出急度申分ケ可仕候、為後日仍如件

元禄八年乙亥

京本願寺末寺　越前国坂井郡御油田村浄土真宗表　演仙寺㊞
京本願寺末寺　越前国坂井郡清王村浄土真宗東　照厳寺㊞
勢州庵芸郡（安）一身田専修寺末寺　越前国坂井郡中川村高田宗　西光寺㊞
越前国羽郡（足脱）福居浄光院末寺　越前国坂井郡前谷村浄土宗　松竜寺㊞
山城国醍醐山報恩院末寺　越前国坂井郡三国真言宗　滝谷寺㊞

寺社方ハ村帳之奥ニ百姓帳同前ニ可書

右者拙僧共寺内人数壱人も不残書付、人別拙僧共致判形上ケ申候、毛頭胡乱成もの壱人も抱置不申候、若宗門之義付六ケ敷義出来申候か、寺内之者不吟味ニ召抱置悪事出来申候ハ、、何時も拙僧共罷出申分ケ仕埒明可申候、為後日仍如件

元禄八年乙亥　　勝楽寺㊞

西光寺㊞

右者当村寺方宗門帳御書上ケ之通少も紛敷義無御座候、若不吟味ニ相改以来相違之儀も御座候ハヽ、庄屋長百生共迄如何様之曲事ニも可被仰付候、為其私共加判形指上申候、以上

中川村庄や　四郎左衛門
同　五郎左衛門
同長百生　清　介

元禄八年

二郎右衛門

右之通百姓帳・寺方共ニ帳壱冊ニ而指上申候

一米五拾俵　但四斗入　前谷組

此割

米壱表内（壱斗九升　弐斗壱升）　前谷村　北野村
米壱表　北村
米四表　中川村
米弐表　田中村
米五表　笹岡村
米弐表　矢地村
米四表　菅野村
米五表　山室村
米四表　宮谷村
米三表　青野木村
米弐表内（七斗五升　五升）　十楽村　西方寺村
米壱表　清王村
米弐表　高つか村
米壱表内（弐斗七升　壱斗三升）　新用村　谷畠村
米壱表　馬場村
米壱表　東善寺村
米壱表　轟木村
米拾表　下関村

右之通割符仕候

同廿六日

一大連三郎左衛門・上番村七兵衛参候ニ付、堤番人之義昨日舟寄ニ而申上候通物語いたし返し候

同廿七日

一村々庄屋中参候ニ付、去戌年宗門御改帳ニ寺判晦日・朔日両日ニ取可申事、戌年諸遣帳之事、亥年宗旨改之事、右わり付申御ふち米之事、上方へ馬うりニ参候事、最前御わり付金之事、判鑑取申事、いつれもへかたく申渡し候

一十郷之内村々候へハ堤番人之事舟寄ニ而申上候通物かたりいたし候

同廿八日

一丸岡御城御請取之方々様御通之節、村々女童等迄も壱人も見物ニ罷出申間敷旨御触状廻り候付、則与下村々堅罷出申間敷由はいふ遣候

同廿九日

一布目彦兵衛ゟ山室・高塚・宮谷三ケ村之戌年宗旨御改帳三冊、同添証文三通、彦兵衛殿御与下村々添証文、寺寄目録共ニ長介為持被指越候付請取、右三ケ村并彦兵衛与下添証文、寺寄目録、竜雲寺之本立ニ言伝して後山へ遣し候

同晦日

一後山村へ罷越候而戌年宗旨御改・添証文并ニ下関・轟木村戌年御改帳ニ寺判形取申候、則後山ニ泊り罷有候

五月朔日

一右同断

一最前割付申候御扶持米、入不申候由御廻状被遣候ニ付、村々ニ而米支度仕間敷由申触候

一明二日之早天ニ与頭中不残舟寄へ罷出候様ニと善右衛門方ゟ被申候ニ付、後山ニ泊り罷有候

同二日

一茂右衛門殿・彦兵衛殿同道ニ而舟寄へ参候付、宗判ニ遅参之寺方之事善兵衛ニ頼置候而舟寄へ参候

一右御割付之五拾表之御ふち米又御用之由被仰付候ニ付、早々明日之内ニ右わり付之通舟寄へ持参候様ニと村々申触候、則舟寄ニ泊り罷有候

一稲葉平右衛門様（稲葉勝行・石田代官）・馬場新右衛門様（馬場昌重・越後川浦代官）、今日丸岡へ御着之由

同三日

一御勘定御与頭山田安兵衛様・平御勘定（マヽ）弥太夫様・小出加兵衛様丸岡へ御着ニ付、寄安村迄罷出坂井郡御支配下与頭中不残御目見得仕候、夫ゟ舟寄へ罷帰泊り罷有候

同四日

一土井甲斐守（土井利知）様丸岡御城御請取、御上使成瀬滝右衛門様・御目付渡部弥之介様、御城代分部隼人（分部信政）様御供少々ニ而丸岡へ御入被成候由、但隼人様・甲斐守様ハ三日ニ古市ニ御泊り、滝右衛門様・弥之介様ハ府中ニ御泊り被成候而、四日ニ古市へ御付候而、右御両方様と御同道ニ而御入被成候

一舟寄を仕廻候而今日罷帰り候

同五日

一後山茂右衛門殿元与拾六ケ村戌年宗旨御改帳拾六冊・添証文拾六通、菅野半右衛門与山室・宮谷・高つ(か脱)三ケ村右之帳三冊・添証文三通、布目ゟ参候を請取預り置申候

一下関・上関両村長江ほり申義、昨日舟寄ニ而上関村庄や中と申合候通、五条堰ゟ下五分壱江之口迄跡之通上関ほり分、五分壱江ハ下関ほり分、長江之内江くろハ両村としてわりわけ、普請所出来候ハ、両村かけくミ不申、其村其番所ふしん可仕候、尤五分壱江ほり申時上関村立毛ニあたり申間敷候、江筋くね木等水ニさわり不申候ハ、切取申間敷候、尤土上ケ場無之候ハ、田畠之内へ土上ケ申義くるしかるましく候、最前五分一江をほり可申とて、上関之者共ほり候て長江をほり残し有之候由、右ゟ両村申合もなく理不尽ニ上関ゟほり残し置申義ニ候へハ、此上ハ跡之通上関ゟほり可申筈、然共下関ゟ人足弐拾人与内申様ニと下関七右衛門・与三兵衛ニ申渡し候

一下関村弥右衛門参候而、畠之内桑を庄や理兵衛理不尽切取申由断申ニ付、庄屋中へ断申下ニ而何とそ埒明可被申候、下ニ而埒明不申候ハ、重而被参候様ニと申返し候

一矢地霊順呼寄候而、庄屋七郎右衛門方ゟ申候事共用へ不申候度々七郎右衛門方ゟ断ニ候、時々ニ其方ヲ呼申候事も成かたく候間、其方のそミ之方へ庄やへ付可申と申渡し候

同六日

一丸岡御城御請取相済申由

同七日

一下関村権四郎上方ゟ罷帰申由断ニ参候ニ付口書証文取申候

一下関・上関両村江ほり申事、右書付置申通後山茂右衛門殿へ手紙ニ而申入候

一江戸田中孫平次殿ゟ三月廿日之御廻状参、拝見いたし布目へ遣し候

一十楽村又右衛門座敷売上ケ証文并五十郎・彦四郎座敷こわち申日用銀証文取候而青山藤太夫様へ指上候、則右座敷こわち申日用銀大工賄銀共ニ金壱分御渡し被成候ニ付預り置申候

同八日

丸岡浪人衆むさと宿仕義無用ニ可被申付候、親類縁者ニ而無拠義於有之、舟寄役所へ相断可得指図由各組下村々可被相触候、以上

亥五月六日　　山田勘介 印
　　川原彦左衛門 印
　　与頭中

此廻状順々相廻し留り村ゟ返し可申候

右之御廻状村次ニ布目村へ遣し申候

右組村々御城米大分滞有之ニ付、吟味被致被指越候様ニ直次申遣候処、兎角之沙汰御座なく、今日中村々呼寄候而三国納手形を以被相改、表ニ而も不足之村々ハ手紙相添早々三国へ指越可被申候、頃日舟弐艘ニ御米四千表余積立候へハ洗と無之候、近日舟も入津可有由ニ候、とかくケ様ニ滞候て者我等不念ニも成、舟寄役人衆申わけも無之候、是非滞申村ハ籠舎被仰付様ニ可致候、其上各ニも不念ニ成可申候間、御油断有間敷候、為其如此申候、以上

五月八日　　青山藤太夫 印

与頭中

右之御配符被遣候ニ付、明九日ニ村々庄屋中御廻米入手形を持三国へ被参候様ニとはいふ遣シ、我等儀ハ三国へ参布目ニ泊り罷有候

同九日

一布目ゟ三国へ参、村々庄屋段々被参候ニ付御廻米之詮儀仕候処、金津新屋惣兵衛方へあつらへ置申村々米之内、少々残り米有之ニ付度々惣兵衛方へ書状遣し候、三国麦や太兵衛方ニ泊り罷有候

同十日

一三国ニ而御廻米せんき仕逗留いたし候

同十一日

一三国ニ而右之せんき罷有候処（マヽ）

覚

一前方申渡候通宗門改帳村々急々相調指上候様ニ又々可相触候

一村々水帳一読申義有之候間、十二日・三日之内ニ舟寄役所へ其村庄屋持参候様ニ可被触候、以上

五月十日　　山田勘介 印

川原彦左衛門 印

与頭中

右之通与下村々はいふ遣し申候、三国ゟ遣し候、三国逗留いたし候

同十二日

一三国ゟ金津新屋方江三度書状遣し候へハ今日返事遣し候、右ゟ請取候米分ハ不残早々入可申由申越候

一与下村々御米請取候、三国之者共段々吟味□（仕カ）御米早々入可申と慥ニ請合候ニ付かたく申、三国ニ逗留いたし候

同十三日

一三国ゟ罷帰候付金津新屋ニあい候而、御米弥々入候様ニと申候へハ、残代銀当廿日切ニ相済申筈ニ村々と請合仕候へハ、追付御米入可申と新屋申ニ付、左様ニ代銀日切指延少之利付ニもいたし直

段も上ケ候て御米油断被致候ハ、、村々申分ケ有ましく候間早々御米被入候様ニと申渡し候

一宿へ罷帰り候へハ、霊順を村中はつし可申由矢地村中願状指上候□□十一日ニ指上候、并霊順妻書付も七郎右衛門持参ニ候

一十四・五日ニ去年宗門御改・添証文并諸遣帳之内此方ニ而請帳ニ書候分、判形取可申候間村々庄や長百生小百姓之内四五人ツ、召連候而、被参候様ニとはいふ遣し候

同十四日

一右判形取申候菅野村半右衛門・久左衛門・三郎左衛門参候ニ付、最前之山代金早々持参被致候ハ、、しゝかはな山かい取相渡し可申と申渡候へハ、此出入ニ十右衛門・弥五右衛門除申ニ付、山請取候共両人へ山渡し申間敷様ニいつれも申候へ共、左様ニ仕候ハ、右両人と村と出入ニ成可申と存候ニ付、久左衛門・三郎左衛門ハ和睦仕度由申ニ付、山わり之儀ハいか様共重而之事、山代金之わりハ右両人として金壱両出し申はつ右ゟ相定候と申聞候へハ、久左衛門・三郎左衛門申候ハ、其金之上ニ今度之出入ニ遣候雑用銀之もり、村並ニ出し候様ニ久左衛門・三郎左衛門として両人へ申聞、何とそ和談可仕と申ニ付、何とそ出入無之候様ニ被致、右ゟ約束之代金調次第ニ持参可有之候、山之埒明ケ可申と申渡し候

同十五日

一右之判形共取申候

同十六日

一権瀬二郎左衛門方ゟ用事候間後山迄参候様ニと申越ニ付参候、追付罷帰り候

同十七日

一矢地霊順、七郎右衛門と畠境之儀ニ付書付指上候ニ付請取置候

一稲葉平右衛門（稲葉勝行・石田代官）様御役人様・馬場新右衛門（馬場昌重・越後川浦代官）様御役人様丸岡永々御逗留ニ候へハ、少も御見廻参間敷候哉御了簡可有之、後山源兵衛当廿日ニ江戸出立ニ相究候間、書状御伝言ニ候ハ、早々後山迄被遣候様ニと、布目彦兵衛方へ村次ニ而手紙遣し候

一矢地村霊順妻最前指上候書付取次くれ候様ニと申来候、十八日之朝参候

同十八日

一昨日之手紙ニ付今日布目彦兵衛殿此方迄被参候ニ付、後山へ申遣候へハ藤右衛門殿も被参候、十九日ニ被帰候

一吉田惣兵衛様・田中孫平次様・清水友右衛門殿之書状三通、後山源兵衛ニ言伝候ニ付今日後山迄遣し候

一昨十七日ニ細呂木五右衛門相果候由ニ而、今日権右衛門為悔之遣し候、同日罷帰

同十九日
同廿日
一布目村彦兵衛殿今日被帰候
一後山源兵衛・東長田喜右衛門・今日江戸へ出立、然とも水出申ニ付舟寄泊り廿一日ニ道中へ罷り被申候加藤武左衛門様へも書状言伝遣し申候

同廿一日
一戌御年貢未進金当月十日切ニ上納可仕旨相触候処、于今上納不仕不届千万ニ候、明日・明後日両日之内ニ上納可仕、遅滞之村ハ急度可申付候間此旨可被相触候、以上

山田勘介印
川原彦左衛門印

五月廿日
前谷村与頭二郎左衛門殿
此配符重而返し可被申候
右之趣村々へ早々配符遣し候
一筆令啓上候、其元弥可為御堅固と珍重ニ□□□（奉存候カ）、然ハ菅野村山出入之儀いかゝ成行候哉、当［　　］約束ニ相覚申故如此ニ候
一東善寺村久兵衛事気分如何候哉、其後［　　］沙汰無之候、是又様子承度候、為其如此ニ□（候）

川原彦左衛門［　（印カ）］
山田勘介印

五月廿日
前谷村与頭
二郎左衛門殿
右之通菅野へ手紙遣し候、幸東善寺村二郎右衛門参候ニ付右被仰越候通申聞、其村田を植仕廻候ハヽ、追而曖ニ参候間、其通相心得候様□（ニ）と申遣候
一大連三郎左衛門方ゟ書状ニ而被申越候ハ、長崎堤つき立候へ共かちつきニ村々ゟ人足・表出し不申候付、御役人様方へ御断申上候へハ与頭中へ申断候様ニと被仰付候間、村々急度申渡し人足・表出し候様ニと申来候ニ付、則十郷之内村々へ右之通はいふ出し申候

同廿二日
一照厳寺様へ参候ニ付、宮谷・青野木・西方寺・清王戌宗門御改・添証文之判、村々へ立寄候而取申候、山室へハ宮谷ゟ為持遣し候て取り申候
一九学（字）・十学（字）照厳寺様ゟ申請候
一菅野村へ立寄半右衛門ニ逢候而、山代金之事早々調候様ニと段々申渡し候
一松竜寺後住之事、福井表可然住持も無之候ハヽ、月窓寺ニ浪人之長老有之候間招請可申候哉、其元御相談之上御指図次第ニ可仕と中川二郎右衛門ニ書状遣し候へハ、成程月窓寺之長老招請仕可然由、

則浄光院様被仰候由助心庵ゟ返事参候
一八木忠兵衛方ゟ与頭中へかし金相済候様ニ、村々申付くれ候様ニと廻状被指越候、則後山へ遣し候、十九日と有之候へ共今日参候
一新屋宗兵衛方ゟ御廻米請取候分、早々入可申と書状便りニ被指越候
一高塚村弥三兵衛小荷駄馬八疋上方へ払ニ参候由、手形出し候へ共留ニ付不申、重而留帳付可申ため覚書ニいたし候

同廿三日

一菅野出入山かい返し可申義弥金津表示合置候へ共、菅野村ゟ出し金調兼申ニ付延引ニ罷成候、併二・三日中ニ埒明可申候、次ニ東善寺村久兵衛気分能罷成候へ共、此出入曖ニ仕相済候而御断可申上と奉存延引いたし候、判鑑帳諸遣帳大方取置候と舟寄へ書状権右衛門ニ為持遣候
一八木忠兵衛方へ昨日之返事遣し候得ハ再返参候
一□（椚川筋）付川除長弐拾七間　田中村
幅三尺高壱間、此石坪拾三坪五合
此人足九拾四人　但　壱坪七人懸り
石取場弐町半
一同（笹岡川筋）川除長拾七間（はゝ三尺　長壱間）　北野村
此土坪八坪半　壱坪六人懸り
人足五拾壱人　但　土取場弐町
一同（南谷）川除長三拾間（はゝ三尺　高壱尺）　笹岡村
此土坪四拾五坪　壱坪四人懸り
人足百八拾人　但　土取場壱丁半
右之通申渡候様ニと舟寄ゟ被仰越候、則右普請所叶申由ニ候
一芦毛馬高塚村弥三兵衛ニ延金ニ而売渡候、□（預カ）り証文有
一出村甚左衛門被参候
一金三分、里竹田舟之盛銀并後山盛銀之内里竹田平左衛門ニ相渡し、手形有

同廿四日

一東善寺村三兵衛弟助十郎と申者此中江戸□□□参候、自然十右衛門・久兵衛出入畠之儀ニ付□□□候ハ、可被仰付候と次郎右衛門断ニ参候［　　］面拾枚買置候由、河内屋ゟ被申越候ニ［　　］代銀銭廿七匁之内金壱分出村甚左衛門ニ言［　　］
一松竜寺住持之儀月窓寺ニ御座候長老□招請申度旨、麦や吉左衛門書状遣し候
一上るり語参候
一中川・田中両村高札場悪敷候由、舟寄ゟ昨日権右衛門被仰越候付両村へ申遣し候

同廿五日

一中川ゟ捨馬・諸勧進之札消候由ニ而板遣し候付書申候

一菅野村出入山代銀調申由、十右衛門・半右衛門断ニ参候

同廿六日

一菅野村へ参、出入山嘘代金之内菅野半右衛門・久左衛門両与ゟ四両、十右衛門・弥五右衛門両人ゟ壱両金子請取候而、夫ゟ金津へ罷出候

一金津大文字や源介方へ参、右相定之通菅野村出入山買返し可申由断申聞候へハ、源介ハ細呂木五右衛門忌之内ニ候へハ、金津御屋敷へ罷出候事難成候間、平野屋与次右衛門を以様子御窺申上埒明可申と申、与次右衛門御屋敷参様子申上候へハ、彦右衛門様（大宮茂冨・福井藩金津奉行）御用ニ御取込ニ候間、一両日相待候様ニと六右衛門殿被仰越候付、其日ハ新屋宗兵衛方ニ泊り罷有候

同廿七日

一三田村六右衛門殿参、右菅野村出入山早速売相渡し申様ニ被仰付可被下候、御用御取込ニ候ハ、滞逗仕候而も埒明罷帰り申度と申入候へハ今晩ゟ明朝迄之内ニ埒明可申と御申ニ付退出いたし候

一東善寺村久兵衛・十右衛門出入嘘可申と存東善寺村へ参、新用弥五兵衛・馬場庄右衛門・谷畠武兵衛呼寄何れも相談を以、右出入之畑ハ只今ゟ十右衛門ニ渡し、辰年ゟ当年迄八年之間為年貢米弐斗久兵衛方ゟ十右衛門ニ渡させ候様ニと嘘可申と相談ニて、其通十右衛門ニ申聞候へハ、いか様共何れも任せ候と申ニ、付久兵衛一門共呼寄候而様子有増申渡し候へハ、嘘相談ニ入可申と申ニ付証文を書様子申聞候へハ、十右衛門買高本主三兵衛弟此中江戸ゟ参候間、畑ハ三兵衛弟助十郎ニ相渡し年貢米ハ少も出し申間敷と申ニ付、助十郎義八年之間他国ニ罷有、何方ニ住所共不知者ニ大事之畑相渡し候へとハ申かたく候、とかく右嘘之通ニ而相済候様ニと色々申聞候へ共一門共久兵衛共ニ承引不仕候、然処へ金津大文字や源介方ゟ菅野山之儀埒明可申候間罷帰り候様ニと申越候付、金津罷帰候へハ夜更候ニ付伊兵衛方ニ泊り罷有候

同廿八日

一菅野村出入山買返し申ニ付、山売証文ハ平右衛門ニ為書、平野屋善兵衛・大文字や源介判形ニ而代金拾両相渡し申候、扨右之山我等買分ニ証文取置候而、菅野村之者共我かまゝニ善兵衛外へ売らせ申間敷と重而申候ハ、善兵衛申分ケ無之候間、菅野村之者共何角と申懸り候ハ、重而善兵衛為申分ケ之、我等証文善兵衛ニ相渡し候、此証文重而茂右衛門・彦兵衛両人之内壱人添判可仕筈約束いたし候、則証文下書取置候

一右之出入嘘ニ仕候節、新屋宗兵衛・小嶋三郎右衛門方ゟ右之山かい返し申事成不申候ハ、、代金弁出し可申由ニ而、弐拾両預り候内ニ而右山買返し申ニ付、五両合力分ニ而我等方へ取、残而拾五両新屋方へ返し候て、去三月十九日ニ相渡し置候預り取返し破り捨申候、扨請取候五両之金ハ右山代金拾両之内ニ善兵衛ニ相渡し、

諸事山出入埒明候而金津ゟ罷帰り候へハ、留守中御用段々留置候付今日此帳面ニ書付置候

指上申一札之事

何何某宿　何村誰

同　何村誰

同　何村誰

右者丸岡飛騨守様牢人衆右之者共好身之方ニ而御座候故無拠当分宿貸申候、勿論当分之儀ニ御座候へ共、慥成請人為取拙者方へ証文取置申候、為後日拙者一札指上申所仍而如件

元禄八亥　何村与頭誰

右之通相認舟寄へ可被指出候、以上

五月廿五日　山田勘介　印

一十日切御金不足村々御書出し被遣、此上滞［　　］籠舎可被仰付由、御はいふ舟寄ゟ廿八日［　　］其段村々かたく申遣候

一丸岡ニ被成御座候御代官様方ゟ田屋・［　　］長畝筋□廻り滝村ニ御昼休、波松浦御泊り、此道筋舟寄御代官所村々有之候ハ、道橋掃除仕、村之内御通被成候節ハ庄や長百生罷出御用等候ハ、可承候由、舟寄ゟ山田勘介様御はいふ被遣候、村々へ早々此段申触候、戌ノ下こくニはいふ遣し候

未進村々之覚

一米三拾五表余　中川村

一米弐拾三表余　矢地村

一米七拾四表余　下関村

右之通村々御廻米未進ニ候間、急度上納仕候様ニと申渡し候様ニと御はいふ被遣候

五月廿八日　三国ゟ川原彦左衛門　印

前谷村与頭二郎左衛門殿

同廿九日

一丸岡へ被成御座候御代官様方御通聞付次第ニ知らせ可被申候、次ニ中川村ゟ瓜生・坪江辺へ人を遣シ、御通り之様子きかせ候様ニと北村・北野・田中・中川へはいふ遣候

一右御代官様方今日丸岡ゟ御出不被成由中川ゟ申来候

一菅野村出入山之儀ニ付同廿六日ゟ金津罷越、右ゟ相定候代金拾両相渡し山売券証文取、諸事相済候而昨日罷帰、菅野村之者召連候而今日罷出御断可申上義ニ候へ共、右御代官様方御通ニ付宿を明申事成かたく候ニ付、為御断先書状を以申上候、菅野村之人足ニ書状ニ而舟寄へ申上候へハ、出入相済一段之由御返事参候

一東善寺村十右衛門参候而久兵衛気分能罷成候由口書指上候

一同村久兵衛参候ニ付嘱之段申候

一栗毛馬菅野村半右衛門ニうり申候

六月朔日

一先月十日切御年貢わり金、早々不足村之分今日之内ニ相済候様ニ

と村々はいふ遣し申候
一右三ケ村御廻米不足相済候様ニと申遣候
一下関・轟木・戌年宗旨帳口張ニ庄や判取申候
一高塚村弥三兵衛馬三疋通手形証文出ス
一権右衛門昨日東郷村永昌寺様ニ逢申ニ付、昨日本庄へ参、今日三国へ参彦左衛門様御目ニ懸り、菅野出入山かい返し申段御断申上候様ニ申遣し候、其外方々へ竹ノ子遣し申候畳之面河内屋ゟ遣善四郎ニ而取寄候、権右衛門ハ帰り不申候

覚

高塚村　山室村　前谷村　笹岡村　矢地村　十楽村　西方寺村
菅野半右衛門与　青野木村　谷畠村　轟木村

右村々先月十日割御年貢金同廿三日迄相延、又候組頭中訴訟ニ付廿九日迄相延シ、若於遅納ニハ籠舎可申付候旨相触候処ニ、上納不仕重々不届越度ニ候、依之右村々庄屋長百姓舟寄迄早々可被指越候、以上

六月朔日　山田勘介印
川原彦左衛門
前谷村与頭二郎左衛門殿

一筆申入候、可申談儀有之候間来ル三日ニ船寄へ各御越可有候

六月朔日　山田勘介印
川彦左衛門
与頭中

右御金不足村々早々舟寄へ参様ニと申遣し候

同二日

一明三日ニ舟寄へ参候間、菅野村庄屋長百姓中も出入山買返し申段御断ニ参候様ニとはいふ遣し候
一轟木村浄光寺殿寺内宗旨帳持参并半米代銀持参
一権右衛門三国麦や太兵衛方ニ泊［　　］罷帰

同三日

一舟寄へ与頭中不残［　　］之義御相談被成□□□何れも申上［　　］算用仕切不申候得［　　］残金有之ハ、三両ハ六月十日切、四両ハ同廿日□（切カ）三両同晦日切と村々申渡シ、其日切［　　］御詮儀被成候様ニと申上、則書付我□□判形いたし指上候
一村々庄屋長百姓判鑑指上候
一村々諸遣帳持参仕候へハ、寄之所ニ戌戌七月ゟ同暮迄と戌正月ゟ同六月迄之わけを立、庄や判を為致指上候様ニと被仰帳戻り候
一東善寺村久兵衛気分能成候由十右衛門口書指上候へハ、下ニ而相済申事ニ候ハ、相済候様ニと口書御返し候
一菅野村山出入相済候由十右衛門・半右衛門・久左衛門・弥五右衛門罷出御断申上候へハ、曖相済申証文ニ庄や長百生・五人頭判形為致指上候様ニと被仰付候
一矢地霊順七郎右衛門と出入書付壱通、霊順妻霊順ニ指上候書付壱

通、村中ゟ霊順はつし申書付壱通持参仕候へハ、余之出入ハ各別、村ゟ指上候書付ハ其通捨置かたく候、然共大事之儀ニ候へハ能々霊順も思案仕候様ニと被仰付候ニ付、右之書付共先御返し被成候

指上申一札之事

金子杢左衛門宿　　菅野村　三郎左衛門

森市左衛門宿　　前谷村　六

森平太左衛門　　介

右者丸岡飛驒守浪人衆、右之者共好身之方ニ而御座候故無拠当分宿貸申候、勿論当分之義ニ御座候へ共慥成請人為取拙者方へ証文取置申候、為後日拙者一札指上申処仍而如件

元禄八年亥五月　　前谷村与頭　次郎左衛門　印

御代官様

右浪人衆村願状諸証文我等方へ取置申様ニと被仰付候

一先月十日切御割付金遅参、先廿九日迄ニも相済不申候村々ハ籠舎被仰付候

同四日

一村々庄屋中今日参候様ニと昨日はいふ遣シ、今日被参候ニ付御年貢未進金段々申渡し候

一菅野村山出入嘘済証文庄や長百生判形仕ニ付、当春山押へ証文善兵衛方ゟ山買証文共ニ菅野村へ相渡し、庄や長百生舟寄へ御断ニ参候ニ付、二月廿七日ニ半右衛門仕候口書之儀定而御詮義可有候間、御侘も申上くれ候様ニといつれも被申ニ付、権右衛門指添遣し候

一村々宗旨改百生判七日・八日ニ取可申候、重而はいふ次第ニ被参候様ニと申遣候、以上

一権右衛門并菅野村久左衛門・清左衛門・利兵衛舟寄ゟ直ニ参候而半右衛門・八郎兵衛・三郎左衛門籠舎被仰付候由、半右衛門義早速出籠願申度由申来候

一菅野村半右衛門上方馬五疋遣し候由断申ニ付而下証文指上候

一同人ニ栗毛馬相渡し候

一高塚村弥三兵衛方ゟ糟毛馬かり寄申候

同五日

一菅野村右之出入ニ如在無之由、口上書舟寄へ指上申候

一十日切御金遅参ニ付前谷市兵衛籠舎可被仰付由ニ而、今日舟寄へ被召寄候ニ付断申上候、口上書指上候

一菅野村半右衛門昨日馬五疋通証文遣し候処ニ内壱疋煩申ニ付、昨日手形間ニ合不申候ニ付今日又四疋之証文遣し候、昨日証文返し不申候

一昨日ゟ片山賢庵老御越候而与下買くれ候様ニと御願ニ付、解毒百粒預り申候、壱粒ニ付弐分ツヽ、今日後山へ御こし被成候

一山田安兵衛、長屋・石塚・桑原ゟ稲越・金津御通、波松御昼休、御泊り滝谷町之由

同六日

一馬場新右衛門様（馬場昌重・越後川浦代官）、稲葉平右衛門様（稲葉勝行・石田代官）丸岡ゟ御出［　　］田屋・女形谷・長畝・仙田（千）ゟ・里窪（田島窪）村へ［　　］被成候付、玄女村川端ニ而御目見得［　　］罷帰り候、此段舟寄へ茂右衛門殿・我［　　］申上候

一轟木村十日割［　　］ニ而庄屋長百生［　　］御はいふ被遣［　　］遣し候

一東善寺村久兵衛［　　］入いか様共相済［　　］

一下関村宗旨御改［　　］庄や共参候様ニと［　　］参候ニ付段々申聞候

一十楽村又右衛門、庄屋長百生之印判［　　］付座敷うり証文書かへ候而判形取申候、然共又右衛門願事有之候ニ付重而藤太夫様へ可申上由申聞候

一西善寺被参候

一前谷市兵衛、菅野半右衛門出籠仕候由市兵衛断申候

同七日

一菅野十右衛門・弥五右衛門・久左衛門・甚左衛門参候而、三郎左衛門・八郎兵衛籠舎御侘申上くれ候様ニと申ニ付、籠入候而五日迄不申候而ハ申上間敷候、明晩か明後日舟舟（衍）寄へ可参由申候

一下関利兵衛ニ十日切、廿日切、卅日切御金之事申付候、宗旨帳之事申付候

一十日切御金無油断指上候様ニと村々へはいふ遣し候

一谷畠武兵衛昨日参候由ニ候へ共あい不申候ニ付今日手紙ニ而御取立之事申遣候

一舟寄善右衛門ゟ籠入御侘言ニ参候様ニと申越候

一六月十日・同廿日・同晦日三度御金割、舟寄ゟ参村々判形仕舟寄へ返し申筈ニ候故別帳留置申候

同八日